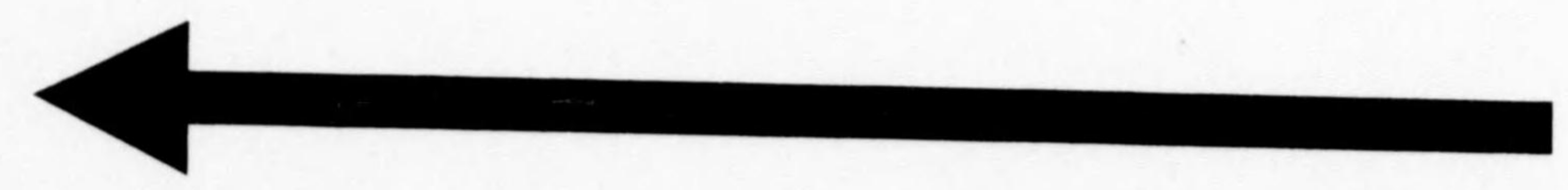


14. 2/1-88
1200501165609
2
3



始



昭和九年

釜山港貿易概覽

釜山稅關

例言

發行所寄贈本



一、本書の調査は特記せるもの、外總て曆年に従ひ、昭和元年には大正十五年の分を含む。

二、本書中内地と稱するは臺灣、樺太、南洋諸島をも含めり。

三、本書掲記の國名及地名は輸出にありては仕向國、輸入にありては生産國、移出は仕向地、移入は仕出地とす。品中には内地に於て輸入手續を爲したる外國産品を含み、輸出品中には朝鮮へ移入したる内地産品を含む。

四、輸出入品には當港に於て通關手續を爲したる陸接國境經由貨物をも計上せり。

五、重要品の消長に就ては輸移出又は輸移入の状況を各併せて記述せるものあり。

六、昭和七年釜山港貿易概覽に掲載したるものにして本書を以て訂正せるものあり。



14.21-788

昭和八年釜山港貿易概覽目次

第一、總說	一
第二、外國貿易(貨物)	二四
(一) 概說	二四
(二) 國別貿易	二六
關東州、滿洲國及中華民國	二六
香 港	三七
英領印度	三八
英領海峽殖民地	三九
蘭領印度	四〇
佛領印度支那	四一
露領亞細亞	四二
比律賓諸島	四三
暹 羅	四四
英吉利	四五
佛蘭西	四六

目次

一



釜山港貿易概覽本

(三) 輸出貨物

◎ 輸出重要品

獨逸	四七
瑞西	四八
北米合衆國	四九
加拿陀	五〇
濠太刺利	五一
布哇	五二
埃及	五三
保稅工場	五四
(三) 輸出貨物	五五
◎ 輸出重要品	
煮乾鱈	六〇
鹹鯪	六三
淡菜	六四
乾蝦	六六
鱈鱈	六八
海參	七〇
鮑罐詰	七一
蟹罐詰	七三

(四) 輸入貨物

◎ 輸入重要品

葉煙草	七五
綿織物	七六
黑鉛	七八
陶磁器	八〇
金屬及同製品	八二
(四) 輸入貨物	八四
◎ 輸入重要品	
米及粳	八九
粟	九一
黍	九二
胡麻子	九三
天日鹽(碎カザルモノ)	九四
葉煙草	九六
原油及重油	九七
揮發油	九九
燈油	一〇〇
輕油	一〇二
機械油	一〇四

第三、内地貿易(貨物)

(一) 概説……………一二〇

(二) 移出貨物……………一二二

◎移出重要品

米及粳……………一二九

概況……………一二九

玄米……………一三五

精米……………一三八

大豆……………一四一

豆糟……………一一九

木材……………一一六

機械類……………一一五

硝子板(無色平面モノ)……………一一三

石炭……………一一一

支那麻布……………一〇九

生インヂアラツパー類……………一〇七

繰綿……………一〇八

パラフィンワックス……………一〇六

(三) 移入貨物……………一七二

◎移入重要品

鮮魚……………一四四

乾鱈……………一四七

明太魚卵……………一四八

海苔……………一四九

林檎……………一五一

栗……………一五三

牛皮……………一五五

魚油……………一五六

繰綿……………一五七

家蠶繭……………一五九

生絲……………一六一

柞蠶生絲……………一六二

牛……………一六四

木炭……………一六七

海藻……………一六八

肥料……………一七〇

大麥及裸麥	一八八
小麥粉	一八九
砂糖	一九〇
清酒	一九二
麥酒	一九三
燒酎	一九五
柑橘類	一九六
乾明太魚	一九八
安全磷寸(小箱入ノモノ)	一九九
打綿	二〇〇
綿織絲	二〇一
毛絲	二〇三
生金巾、生シーチング及生細布	二〇四
晒金巾、晒シーチング及晒細布	二〇六
ジーンズ	二〇八
綿襦子	二〇九
毛織物	二一〇
絹織物	二一三

目次

第四、金銀地金貿易

漁網及漁網地	二一五
和服	二一七
洋服	二一八
護謨靴	二一九
地下足袋	二二〇
洋紙	二二一
和紙	二二三
セメント	二二四
陶磁器及其他ノ粘土製品	二二五
鐵及鋼	二二七
銅	二二九
洋鐵釘	二三一
絶緣電線	二三二
鐵道車輛及同部分品	二三三
自動車及同部分品	二三四
自轉車及同部分品	二三五
硫安肥料	二三六
金銀地金貿易	二三七

第五、通過貿易	二四一
第六、加工貿易	二五一
第七、保稅倉庫	二五四
私設保稅倉庫	二五四
第八、保稅工場	二五七
私設保稅工場	二五七
第九、私設上屋	二六〇
第十、運輸交通	二六一
(一) 船	二六一
(二) 貨物	二七一
(A) 貿易貨物	二七一
(B) 鐵道貨物	二七五
(三) 運賃	二八〇
(四) 旅客	二八三
(A) 船舶旅客	二八三
(B) 鐵道旅客	二八六

第十一、稅關收入

二八六

(一) 本關

二八八

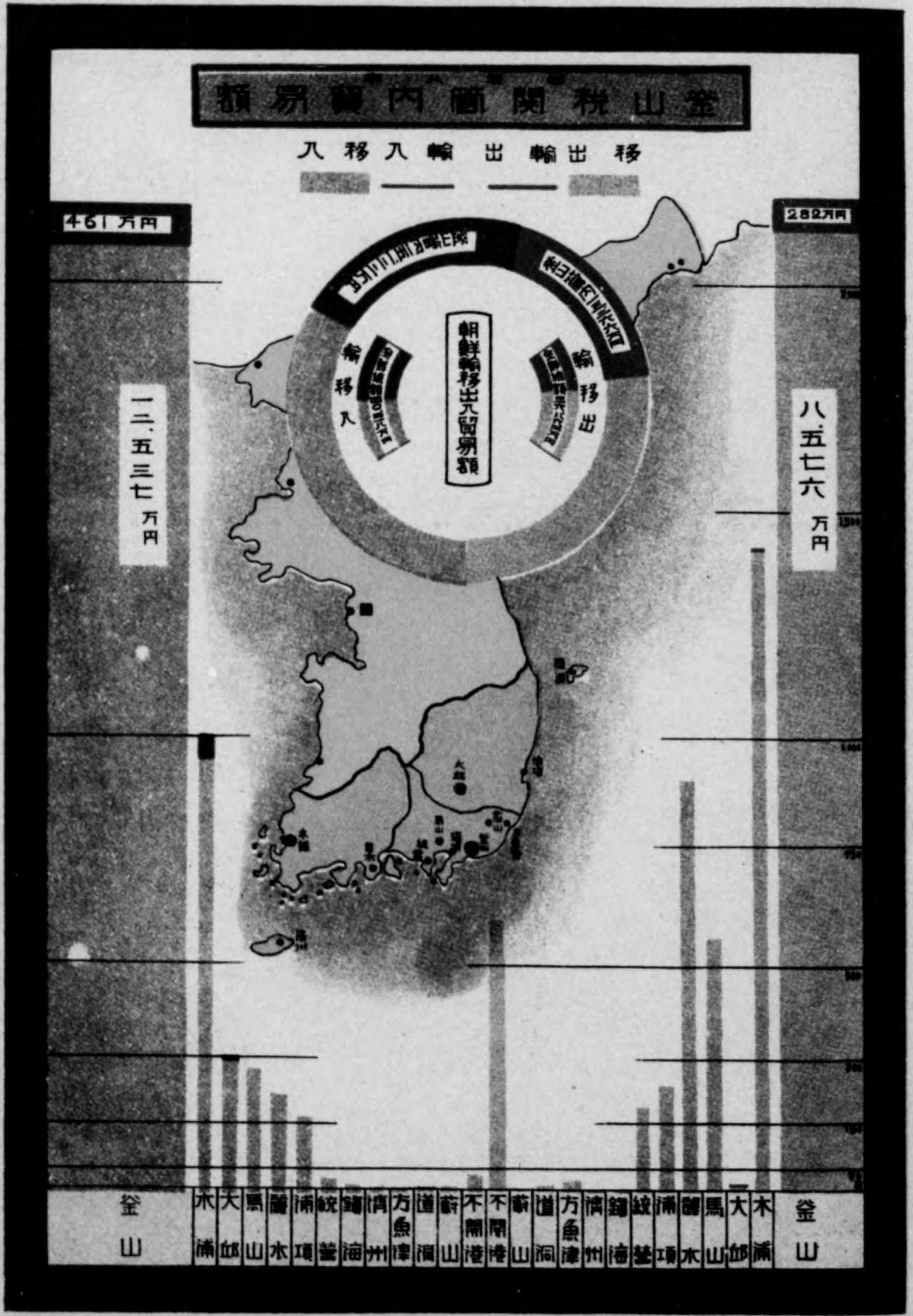
(二) 管內支署及出張所

二八九

第十二、管內各港貿易概況

二九一

木浦	二九一
大邱	三〇〇
馬山	三〇七
麗水	三一四
鎮海	三一七
統營	三二〇
濟州	三二三
方魚津	三二五
浦項	三二七
道洞	三二九
蔚山飛行場	三三一
稅關所在地外不開港(慶尙南道及慶尙北道)	三三二



全山関内貿易額

移輸出 輸出入 移入

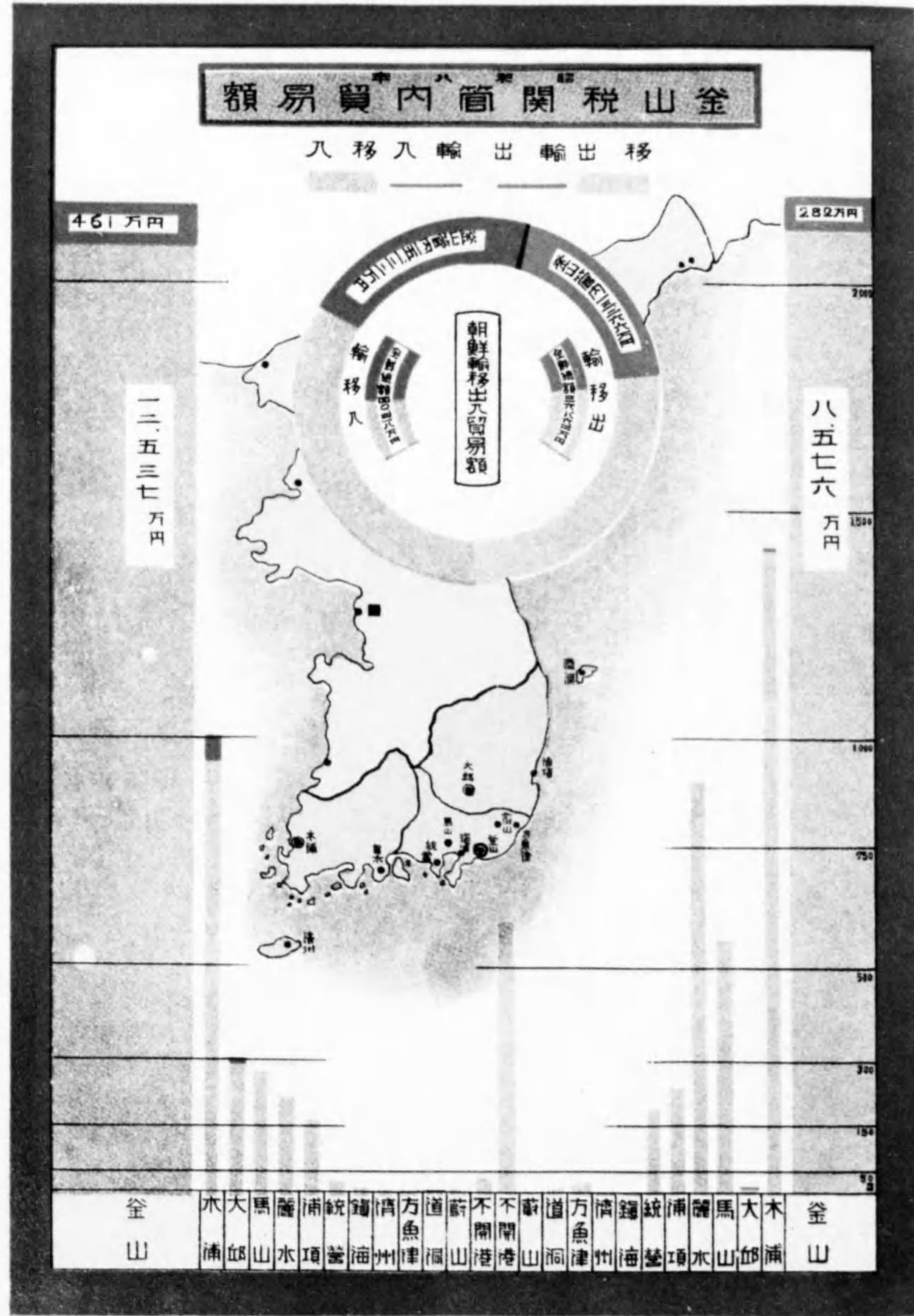
461万円

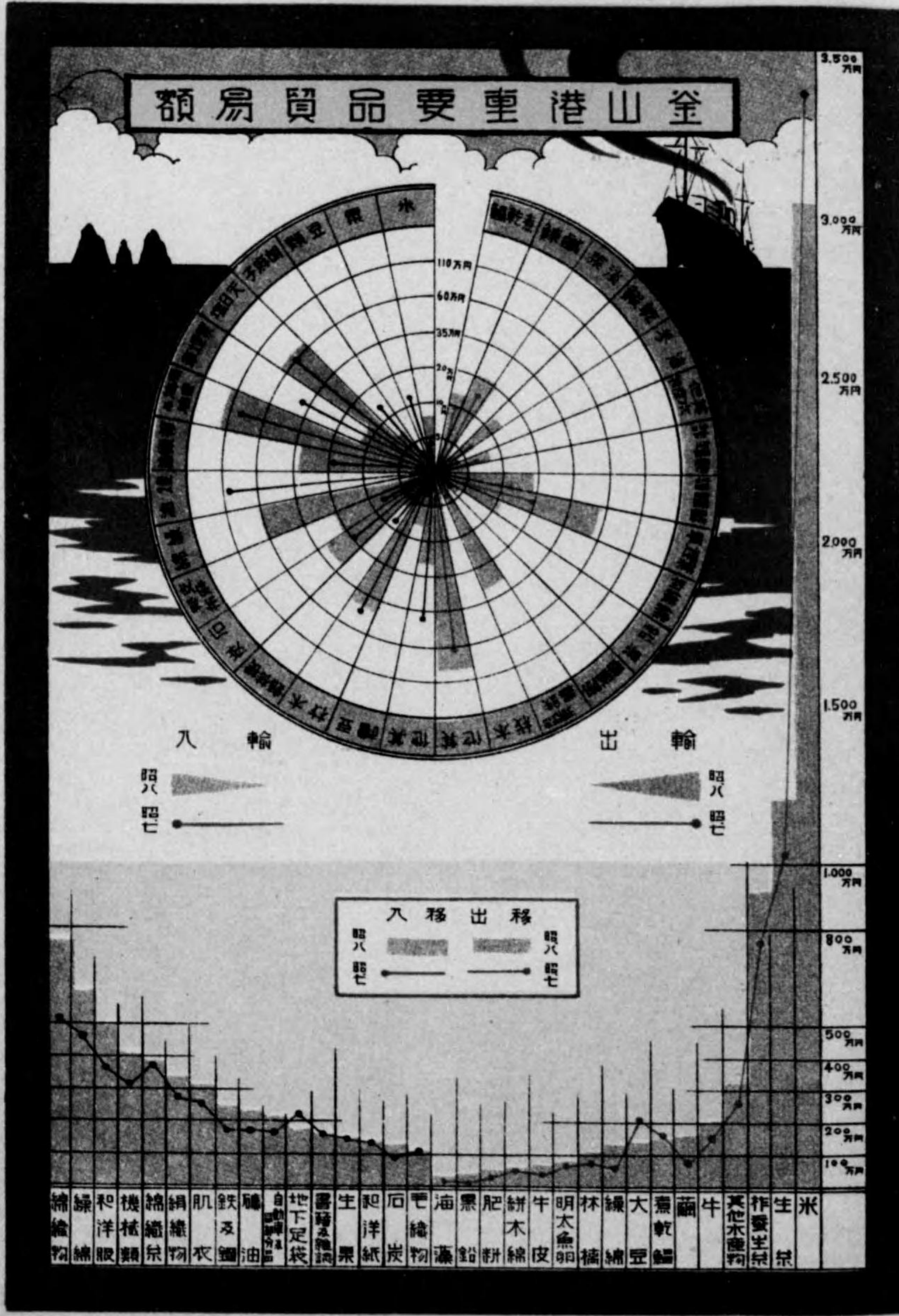
282万円

八五七六万円

一二五三七万円

釜山 木浦 大邱 黒山 麗水 浦項 統營 鎮海 方州 魚津 道州 蔚山 不港 不港 蔚山 道州 方州 魚津 浦項 麗水 大邱 木浦 釜山





昭和八年釜山港貿易概覽

第一、總說

昭和八年中の釜山港貨物貿易額は、對外國貿易七百四十三萬餘圓、對内地貿易二億一千百十二萬餘圓、總計二億一千八百五十六萬餘圓を算したが、之を前年に比すれば、輸入十五萬餘圓を減少したる外、輸出百五十一萬餘圓、移出四百十六萬餘圓、移入二千七百九十七萬餘圓の各増加を告げ、總計に於て一割八分強に相當する三千三百四十九萬餘圓の増進である、而して貿易の權衡は、輸移入超過四千四百十萬餘圓で前年に比し二千二百十四萬餘圓の入超過増加を呈した。

釜山港輸移出入貨物貿易額二年比較表 (圓)

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	貿易額	對總額ニ歩合	貿易額	對總額ニ歩合	増減	歩合
外國貿易	輸入	7,430,000	1,600,000	5,830,000	1,600,000	27.1%
	輸出	15,100,000	1,100,000	13,000,000	2,100,000	16.2%
計	輸入	7,430,000	1,600,000	5,830,000	1,600,000	27.1%
	輸出	15,100,000	1,100,000	13,000,000	2,100,000	16.2%

總計	内地貿易		總計	内地貿易		總計	内地貿易	
	輸移入	輸移出		移入	移出		輸移入	輸移出
輸移出(入)△								
超過	411,477,317		19,327,300		411,477,317			
	328,508,888	101,164,477	128,001,118	101,164,477	328,508,888	49,499,330	27,819,661	11,870,000
	139,944,000	59,945	101,164,477	59,945	139,944,000	4,448	5,679,661	0,690
	88,556,768	4,055	27,819,661	4,448	88,556,768	4,448	1,139,000	11,180
	231,239,744	9,995	176,901,657	9,995	231,239,744	4,448	1,139,000	11,180
	135,373,146	5,733	97,085,989	5,733	135,373,146	4,448	1,139,000	11,180
	85,756,599	3,993	79,815,668	3,993	85,756,599	4,448	1,139,000	11,180

按ずるに、歐洲大戰以來世界的に困憊せる經濟界の變轉推移は、遂に金本位の基礎を動搖せしめ、加ふるに滿洲事變、上海事變等に次で、本年我帝國の國際聯盟離脱に依り、所謂非常時局を招來すると共に、期待せられたる國際經濟會議も何等の成果を見ず、國際關係愈々複雑多岐に亘り各國互に關稅の障壁を高め、其他凡ゆる手段を講じ自國産業保護に熱狂の結果、通商危機日々に濃化し特に印度貿易關係に於て條約破棄、原棉不買等に依て一大暗影を投じ、之が解決案たる日印會商は波瀾萬丈全く豫測を許さざる形勢にあり、且つ支那の排日運動、米國の金融恐慌等、對外貿易上障害を受くべき事象多く、幾多難關に直而せしも幸にして本邦爲替相場の暴落と、インフレーション景氣の波動を受け輸出大に促進せられ、各國孰れも不況裡に沈淪せるに拘らず、獨り日本商品が關稅戰を突破し世界市場を席捲する勢を呈せしは、蓋し近來の快心事で曾て見ない現象であるのみならず、國內的にはインフレーション浸潤、物價騰貴、軍需關係工業の進展等に依て景氣序々に擡頭の傾向を見せ、貿易亦大休好勢を告げたが、良品廉價を武器とし、生産合理化に基礎を置く邦品獨歩は遂に世界恐怖の的となり、關稅引上、輸入制限、輸入禁止等相次で起る諸外國の對日通商壓迫は次第に露骨を極め、而も日貨排斥は四面楚歌の狀態にて英國を首とし、各國提携して無謀、亂暴なる共同排撃の策動あるに於て、經濟戰線益々激化し前途一層多難の狀態に在りと謂はねばならぬ。

而して朝鮮財界も大体曲折多き内地の影響を受くると共に、鮮内經濟の基調を爲す米價はインフレーション景氣に取殘され、剩へ一旦昂騰したる糸價の轉落等に依り、著しく景氣の轉向を期し得ざりしことは已むを得ない處なるも、繭、綿等の增收に依り地方農村を潤ほし、自力更生運動は其効果顯著にして地方購買力を増進し、一般財界は上半期より下半期に掛けて平穩を呈し、而かも歴史的低金利の出現と、物價高とは各種事業界を刺戟し、金鑛業の如き全鮮的に氣勢を煽り、水産界亦日支停戰以來活氣頓に回復の狀態で、罐詰其他加工品に至る迄俄に好轉を辿り、殊に半島産業界に重きを爲す當地生産品たる綿糸布、硬質陶器、新興品磁器鐵器等の進出目覺ましく、南洋方面新市場を開拓したる外、滿洲國の關稅改正、鐵道のスピードアップと相俟て對滿貿易の躍進を見る等、産業の發展は貿易上に驚くべき實勢力を發揮するに至つた。

斯くて當港貿易は對外輸出貿易を促進すると共に、事業界の好轉、内地對滿洲仲繼貨物の荷動増、其他物價値上りに依る貿易額の増大等に依て對内地貿易を増進したる結果、一躍昭和五年以來の頽勢を挽回して過去最高記録を残せる昭和三、四年の貿易額に殆ど匹仲し、二億圓を突破せるは特筆大書に値す、而して對内地及對外國夫々の貿易事情は詳細後述すべきも、試に其内容を検討せむか、輸出の増進は海産物の上海方面に對する局面展開、對滿貿易の進捗、磁器鐵器の南洋輸出好況等に基因するが、埃及仕向の葉煙草、朝紡粗布の滿洲輸出開始、鐵道運賃割引に依る蜜柑の出増等も見逃し難い、輸入の減少は關稅關係で、昨七年の見越輸入後に於ける燈油の反動的減退、並に關稅引上と、鮮米割安等の影響を蒙りたる粟及黍等代用食料品の需要不振に因由するが、發動機關の發達に伴ふ原重油及ロシア産の進出に依る揮發油等の増進顯著である、又移出の増進は米國景氣の波に乗れる糸價の暴騰から、上半期に於ける繭、生糸、柞蠶糸等の出増に基因し、大宗品たる米は玄米減、精米増に變轉し、合計に於て多少出減を免れなかつた、移入の増進は滿洲國進出計畫の爲、朝紡原料綿の買付増、其他一般外國産の高位と、國産品需要擡頭等に依るものである、右の外重要品の消長を掲記すれば、輸出に於て鮮魚海參等の減退を見た外、一般水産物を初め、罐詰、黒鉛、陶磁器等好調を呈し、移出に於ては作柄不良の大豆、漁獲不振の煮干鰯等の減少ありたるも、海苔、

林檎、牛皮、繅綿、鑽、牛、海藻、肥料等出増し、又輸入に在ては碎米、支那麻布、石灰、肥料等入増せしも、胡麻子、生護謨、硝子板、機械類、木材等不況を告げ、移入に在りては乾明太魚、柑橘類、護謨靴、地下足袋、硫酸肥料等減入せしも、砂糖、麥酒、揮發油、安全燐寸、綿織物、毛織物、絹織物、和洋服、肌衣、洋紙、石炭、鐵及銅、電信電話機、鐵道車輛、自動車、機械類、木材等増進を示した、尙物價値上り關係で數量減、價額増を來したもの、主なるものを舉れば、輸出の塩、輸入の天日塩、移出の干鱈、移入の繅綿、綿織糸等である。

蓋し世を擧て不景氣の聲を聞き、殊に當關管内の如き稀有の風水害に見舞はれながら、尙叙上の成績を收め得たことは、如何に將來大發展の素地あるかを感知せしむるに充分であり、且つ對外貿易に著しく更生の機運を齎らし、就中輸出貿易の飛躍的發展は最も意を強くするに足るものであるが、若し夫れ明年度の貿易趨勢を一瞥するならば、新興滿洲國の發達と共に、日滿經濟的聯繫の緊密を加ふるに及び、更に一段増進を促すは必然の勢であるばかりでなく、對内地貿易其他對外貿易に於ても亦轉換期に立ち好望を期待せられる、元來釜山港は東亞の關門、日滿交通路の最大幹線たる地位にある上、地勢上内地主要港に對する貿易關係は言ふに及ばず、本年裏日本の中樞境港に對し南鮮、裏日本を結び付くる釜山鬱陵島線を延長して新なる交通路を展開せしむるに至り、同地方との取引は轉期を劃して好勢を辿る形勢にあり、又臺灣との交渉狀態も航路の増加、就航船の整備等に依て次第に密接を加へ來り、轉じて大連、上海、浦鹽方面に對しても、亦恰好の地位を利用して交易益々頻繁を呈し、今や焦眉の急として南洋直通航路の速急開設を促す實情にある等、斯る情勢に基き當港貿易の前途を展望するとき、洋々として祝福すべきものがある。

左に本港の既往貿易の消長と全鮮主要港の貿易額を比較對照する。

貨物貿易額十年對照表 (四)

年次	輸移出	輸移入	合計	出超額 (入△)
昭和八年	八八、五七六、七六八	一一九、九二四、〇二〇	二〇八、五〇一、七八八	△ 二、九二四、三一二
同 七年	八二、八七七、一〇七	一〇一、一七二、五〇九	一八四、〇四九、六一六	△ 一、二七二、四〇九
同 六年	八二、三三三、一四四	九〇、七七一、七一九	一七三、〇一四、八六三	△ 一、一八一、七五三
同 五年	八二、三三三、二二八	一〇九、四九一、九二九	一九一、八二五、一五七	△ 一、〇九二、九二九
同 四年	一〇九、七〇九、六三六	一三〇、三二七、三六二	二四〇、〇三六、九九八	△ 一、〇二六、三六二
同 三年	一一八、九四五、一九一	一三三、〇四九、五六四	二五二、〇〇五、七五五	△ 一、〇〇九、七六四
同 二年	一二六、三九九、七一九	一三三、三九八、四一七	二五九、七九八、六一六	△ 一、〇〇八、六一六
同 元年	一三三、七三三、三三三	一三三、一〇一、三三三	二六六、八三四、六六六	△ 一、〇〇三、三三三
大正十四年	一三三、〇〇〇、三三三	一〇三、七七二、一九一	二三六、七七二、五二四	△ 一、〇〇〇、三三三
同 十三年	一一八、一〇九、六三六	九五、八五六、一七七	二一三、九六五、八一三	△ 一、〇〇〇、三三三

全鮮港別貿易額三年對照表 (四)

港別	昭和八年	昭和七年	昭和六年
釜山	三二八、三〇〇、八八八	一八〇、〇六一、五二二	一三二、三三三、三三三
木浦	三二八、三三三、三三三	三三三、三三三、三三三	三三三、三三三、三三三
大邱	〇一〇、一〇一、〇一〇	一〇一、〇一〇、一〇一	一〇一、〇一〇、一〇一

釜山	昭和八年		昭和七年	
	輸出	移出	輸出	移出
計	二,八二〇,一六九	八五,七五六,五九九	一,一三〇,二五一	八一,五九四,八五六
馬山及鎮海		八,六二五,四四三	九,一六七,九六三	九,六四二,四六五
仁川		一一八,六三九,一一〇	一〇三,八五八,二八九	九〇,一五一,七五八
京城		二二,一〇五,二九四	一七,八八六,三〇六	一五,〇五九,二九六
元山		五,三九九,六三一	四五,三四五,二九六	三九,八九四,二七七
清津		二四,四五八,一八九	一七,二五三,〇六一	一四,八三七,三六一
雄基		七,二七四,二七六	五,三三五,〇六九	四,一一三,四六七
新州		二五,六〇一,五四六	二一,四八〇,五六七	一三,四八〇,七七二
龍岩		一一,二二二,六〇八	四,三三〇,三六三	三,六八三,四一一
鎮南		六七,八三九,九六〇	五六,二八六,七七四	三三,七一一,三一五
平壤		八,九七一,二九二	三,五三五,七八〇	二,八四五,一〇三
其他		一五,八三八,一七八	六八,六五八,六五七	五四,五〇三,八三三
計		六九,七〇四,三七八	一四,八九三,九〇八	一三,七四六,六二九
		七三,八三二,一八二	五一,一四二,七八〇	三九,五五五,〇五五

全鮮港別輸移出貿易額二年對照表 (四)

釜山	昭和八年		昭和七年	
	輸出	移出	輸出	移出
計	二,八二〇,一六九	八五,七五六,五九九	一,一三〇,二五一	八一,五九四,八五六
木浦	九〇,五五七	一八,三七二,一九〇	九三,九八八	一六,四六四,二〇九
大邱	三五,三〇八	一八三,二七三	一八,五三三	八八,四三三
馬山及鎮海	一八,四七三	五,六三一,四六六	一三,五四三	六,四三九,〇八八
仁川	三,四七三,三〇〇	四,〇一〇,一七二	二,一〇三,八〇二	四,〇九二,七六八
京城	一,八四八,三七五	二九五,三一五	一,四一四,七五一	一六,〇〇〇,九〇〇
元山	四,〇五七,八三五	三七,四七九,八七一	一,七六六,一七九	三三,八二六,二六三
清津	一〇,六三〇	四,九二六,一三六	九,一〇四	四,四六四,七三七
雄基	三,一三八,五八三	六,六三一,二四六	二,六五五,五〇〇	六,五二四,〇七五
新州	一,五二〇,八五一	九,七六九,八二九	三三,六二八	九,一五九,七五五
龍岩	二四,八六三,八七三	二,八七四,六四八	一五,二八八,七八六	一,四一七,九二二
鎮南	四七〇,六四三	四,〇七二,八〇七	二二五,一九四	三,三五三,四九八
平壤	一,三九八,九七七	四,三八八,二四四	九二九,三二七	一,七五九,八三六
其他	六,六〇一,九七五	四三,九〇八,二九九	二,四六四,一四六	四八,〇〇七,四〇一
計	五二,七三三,三七五	三一五,八四四,四九九	三六,八六七,七三三	二二〇,四四一,二九六

全鮮港別輸移入貿易額二年對照表 (四)

港別	昭和八年		昭和七年	
	輸移入	計	輸移入	計
釜山	四、六一〇、九三四	二五、三七三、一四六	四、七六九、一〇〇	九七、三九五、三〇七
木浦	五、一四、七四四	九、五五一、五五五	一、〇八六、六六一	七、二六二、〇二〇
大邱	八、〇、九三五	三、〇三三、一〇四	一、三五、六二六	二、三三四、四九七
馬山	一、二六〇	二、九七三、七二六	一九、六〇三	二、七〇六、七三二
仁川	七、五四〇、七〇四	六八、〇三一、八五四	七、七四八、九六四	五、九一三、七四八
京城	一、九七八、五八一	一八、九八三、〇三三	一、七三九、三七五	一四、五七三、一七五
元山	八、三六、四九四	二二、九六八、二一九	九六七、七六九	一〇、五三三、五九〇
清津	四、七一一、五六三	一〇、七六二、六五四	四、九七〇、〇三三	七、六四二、一三三
雄基	二、九一、二二七	四、一三八、八五八	四、四八、九三六	二、七三三、三三六
新州	二、九九五、一八四	一三、八二六、五三三	二、一三八、八二六	一〇、一八一、九六六
龍浦	六、三七〇三三	七、六一〇、九三七	二、六七、七四〇	二、一〇一、一〇一
鎮南	三、八四九、〇一〇	三、〇〇、〇六七	一、四七五、七八七	一、二二、九六三
平壤	三、一八九、〇五三	二、四九五、二八八	三、八三九、五五三	一五、八二二、三六六
其他	二、八三三、一三三	一〇、一七一、〇三〇	一、三三九、五二〇	一、一、四八二、一三三
計	六四、三六八、二六四	三三九、八七二、九六六	四〇、四一八、四六〇	三三六、〇〇〇、〇三三

次に釜山港の輸移出主要品及輸移入主要品に就き前年と比較表示すれば次の如くである。

輸移出主要品二年比較表

品名	昭和八年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額
米	三、七九、四三〇	七、五九八、三三一	三、七九、四三〇	七、五九八、三三一
米精	一、〇四九、九三〇	二、九八八、八七〇	一、〇四九、九三〇	二、九八八、八七〇
及米	三三	一、一	三三	一、一
其碎	四八、八五九	三五、四四〇	四八、八五九	三五、四四〇
其他	一一、六八八	三、七八三	一一、六八八	三、七八三
計	一、〇〇六、九〇〇	一、〇〇六、九〇〇	一、〇〇六、九〇〇	一、〇〇六、九〇〇
大豆	一〇九、三九一	二、八八、三三九	一〇九、三九一	二、八八、三三九
大豆	〇、〇一〇	〇、〇一〇	〇、〇一〇	〇、〇一〇
水産物	三、七五二、三六二	三、一〇六、四三二	三、七五二、三六二	三、一〇六、四三二
鮮魚	五、〇五八、九五八	五、五七一、九八四	五、〇五八、九五八	五、五七一、九八四
乾魚	一、四五二、七三三	一、六五八、三三三	一、四五二、七三三	一、六五八、三三三
其他	二、八二二、五五二	三、九七一、三四六	二、八二二、五五二	三、九七一、三四六
計	九、三三三、四三三	一〇、五五五、〇七〇	九、三三三、四三三	一〇、五五五、〇七〇

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
植米及穀物	百斤	七三,一三四	四七,六〇五	二五,五二九	二五〇,〇〇八	一五七,二〇〇	九二,八〇八
大麥及裸麥	同	六九,八五六	五五,七六七	一四,〇八九	三六,〇〇七	二四,四九三	一一,五一四
粟類	同	五,五八八	二四,五〇五	一八,九一七	二六,〇七七	一,一六八	八八,八四〇
豆類	同	一七,七〇九	一七,二二二	四九六	二六,〇五六	二二,〇九一	四,九一五
小麥	斤	六,〇〇八,三三九	六,八六六,〇八九	八〇七,七五〇	五八六,三六二	五七九,八七三	六,四八九
砂糖	同	三,二七,四四二	二,八八五,六六一	三五一,七五一	三八五,一八五	二〇,〇一五	九五,〇三三
菓子	同	—	—	—	—	—	—
清酒	升	—	—	—	—	—	—
麥酒	同	—	—	—	—	—	—
生酒	同	—	—	—	—	—	—
乾菜	斤	—	—	—	—	—	—
生菓	同	—	—	—	—	—	—
柑類	同	—	—	—	—	—	—
其他	同	—	—	—	—	—	—
計	同	二〇,〇一〇	一七,三二九	二,六八〇	一,〇一〇,三三三	一,〇一〇,三三三	—

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
鐵	斤	二,八七八,二八三	二,〇九八,三三九	七八〇,〇五三	七三,三七〇	三七,一一九	三六,二五一
牛	頭	三九,四八四	三〇,六三六	八,八四八	二,二七,八九四	一,五九,六二六	五九八,二六八
時計及諸機械	同	—	—	—	—	—	—
船舶	同	—	—	—	—	—	—
木	立方尺	九,八四六	二四,二二八	一四,三八二	七八八,四七八	一五,九九五	一〇,〇八六
木板	同	五〇,〇五三	二二,三七六	二七,六七七	四一,七四九	一,八八五	二九,八六四
其他	同	—	—	—	—	—	—
木炭	百斤	—	—	—	—	—	—
海魚	斤	—	—	—	—	—	—
乾魚	百斤	—	—	—	—	—	—
肥料	同	—	—	—	—	—	—
其他	同	—	—	—	—	—	—
料	同	—	—	—	—	—	—
其他	同	—	—	—	—	—	—
其他	同	—	—	—	—	—	—
小包郵便物	同	—	—	—	—	—	—
其他	同	—	—	—	—	—	—
計	同	一〇,一四一	一〇,一四一	—	一〇,一四一	一〇,一四一	—

第一總說

第一總說	方碼
生シーチング	一、五四九、九九二
生細布	四、二六、六八八
晒金巾及晒シーチング	三、二八七、六一四
晒細布	一、四三四、九六一
天竺布	三、三六、三六〇
白木綿	二、二六、八二二
ボプリン	五、〇三、九一九
綿モスリン	一、〇九七、三三九
色金巾	一、〇四五、四一四
色木綿	三、六六、三九九
綿及緋木綿	七、七二、六二〇
ジーンズ	二、四五五、六四五
綿襦子及新イタリアンス	二、〇一五、一七九
其計	一、四、六〇一、〇一一
支那麻布	三、六一、四四六
支那麻布	五、五七、三三九
其他	四、三三、九四二
物織麻計	九、九二、一八〇
羅紗及セルヂス(毛織製)	四、六五、九一〇
生シーチング	一、五二五、三六一
生細布	三、三九九、六〇三
晒金巾及晒シーチング	三、三三八、七三六
晒細布	一、七三三、〇三二
天竺布	三、七二、一四七
白木綿	二、三三九、二七三
ボプリン	三、一〇、五八九
綿モスリン	九、九二、四五一
色金巾	六、九五、七二七
色木綿	三、七五、五三三
綿及緋木綿	三、九二、九八〇
ジーンズ	一、八〇九、三九九
綿襦子及新イタリアンス	二、六〇〇、三〇四
其計	二、三三三、八二六
支那麻布	三、六一、四四六
支那麻布	二、六七、〇八四
其他	二、九五、六九九
物織麻計	五、五七、七二七
羅紗及セルヂス(毛織製)	四、八七、二八四
生シーチング	二、四、三三〇
生細布	七、七、〇六六
晒金巾及晒シーチング	五、一、一一二
晒細布	三、〇七、〇九九
天竺布	四、五、八八七
白木綿	二、三三、四五一
ボプリン	一、九三、三三〇
綿モスリン	一、〇五、八七七
色金巾	三、〇九、六八七
色木綿	九、一、二二
綿及緋木綿	三、七一、六〇〇
ジーンズ	六、二五、一一五
綿襦子及新イタリアンス	四、三七八、一八五
其計	五、九二六、四六五
支那麻布	二、九〇、一五五
支那麻布	一、三八、二四五
其他	三、三三、二四五
物織麻計	四、八、二八四
羅紗及セルヂス(毛織製)	二、二、二七四
生シーチング	二、八四、一四八
生細布	六、九〇、八八六
晒金巾及晒シーチング	六、三三、二七一
晒細布	三、二七、二七〇
天竺布	五、九、四〇七
白木綿	三、六七、六九三
ボプリン	一、七一、六八五
綿モスリン	一、九〇、五九七
色金巾	一、二一、〇〇一
色木綿	七、三、九九〇
綿及緋木綿	一、八八、九八八
ジーンズ	四、九四、六六七
綿襦子及新イタリアンス	五、九四、八七七
其計	七、七六八、三六六
支那麻布	二、一〇、四七〇
支那麻布	一、二二、八七四
其他	三、三三、二四五
物織麻計	五、六六、二四五
羅紗及セルヂス(毛織製)	六、一八、八四五
生シーチング	一、九二、八三三
生細布	三、九八、〇四一
晒金巾及晒シーチング	五、一六、二三三
晒細布	二、〇四、三三三
天竺布	五、五、四一八
白木綿	二、三三、〇一三
ボプリン	九、三、八八六
綿モスリン	七、七、七九九
色金巾	二、二、〇一一
色木綿	五、九、九九九
綿及緋木綿	二、二二、六八一
ジーンズ	四、四、六八一
綿襦子及新イタリアンス	七、七、七九九
其計	二、二二、六八一
支那麻布	三、三、三三三
支那麻布	一、一、一〇一
其他	三、三、三三三
物織麻計	二、二、二二二
羅紗及セルヂス(毛織製)	一、一、一〇一

第一總說

第一總說	方碼
毛織物	八一九、五五八
其計	一、七九、三〇六
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	七、三六、六六一
其計	一、二、一一一
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	八、三、三三七
甲斐絹	二、二七、五三三
縮緬	二、二七、五三三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	二、二九、〇五三
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	八、二、八、九七七
其計	二、一、八〇五
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	四、三、三、一一〇
其計	二、三六、九八九
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	三、三六、七二六
其計	二、三六、九八九
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	一、八、二、六八四
其計	二、三六、九八九
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	一、八、二、六八四
其計	二、三六、九八九
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五
物織毛	一、八、二、六八四
其計	二、三六、九八九
襦子及綬子	一、四、六四、七七四
羽二重	四、一、六四三
甲斐絹	二、二九、〇五三
縮緬	二、二九、〇五三
銘仙	一、二八、三〇〇
其計	三、三三、二八九
他	一、七三、三五七
他	七、六七三、八八八
物織綿	八、四、八、二四九
浴巾	六、一、三三、〇三六
計	七、一〇、九、八五〇
漁網及漁網地	二、三三、四三二
ホース及機械用	三、三三、四三二
ベール	一、二五、三五五
和服	一、二五、三五五
洋衣服	一、二五、三五五
肌足袋	一、二五、三五五
靴足袋	一、二五、三五五
日本足袋	一、二五、三五五
帽子	一、二五、三五五

計	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	平均
一、九〇四、九三〇	二、八四、六九三	三、四四、八八三	四、六九、五五一	四、〇四、三三三	六、三三、五五〇	五、六六、一〇四	二、七〇七、九〇〇	二、七〇七、九〇〇
二、九一八、八二九	四、〇一、二一〇	四、〇一、四九一	一、五八、八一四	二、七二、九三四	三、二九、〇三八	三、一四、一八四	四、七九、九一〇	四、七九、九一〇
△ 一、〇八六、八九九	△ 一、一六、五一七	△ 五、六〇八	△ 三、〇七、七三七	△ 一、三二、六八九	△ 四、〇七、五二三	△ 二、五二、九一〇	△ 九、八、七三三	△ 九、八、七三三
五九、四九五、五三九	八、七四二、一五五	九、九〇五、三六三	一一、〇〇七、九七七	一〇、八八一、三三七	一三、六四三、四八〇	一二、四三七、三四五	二、五、九七、七六六	二、五、九七、七六六
四九、〇九、四六六	五、八七三、四〇三	六、三九九、三九九	八、三九三、〇三三	九、二七七、四九九	八、七六七、四八三	九、九三三、二七四	四、八、三三、八二二	四、八、三三、八二二
一〇、四三、〇三三	三、九四四、七五三	三、六三六、二二四	二、六一五、九二五	九、七三三、八四六	四、八七五、九六七	二、五三三、〇七二	二、七、九七、七六六	二、七、九七、七六六
六、一三〇、〇三三	九、〇三六、八四八	〇、二五〇、二四六	一一、四七七、五〇八	一〇、五八五、五六〇	一四、二八〇、〇〇〇	一三、〇〇三、四九九	一、〇、八三、七〇〇	一、〇、八三、七〇〇
五、一〇一、一三三	六、三三六、六一六	六、六七〇、六三〇	八、五五〇、八四六	九、四八〇、〇三五	八、九九六、五二一	一〇、二二六、四五八	一、〇、一、一四、四〇七	一、〇、一、一四、四〇七
九、三三九、一五四	二、七九八、二五六	三、五七九、六一六	二、九三六、六六三	一、一〇五、五三三	五、二八三、四七七	二、七八六、九九一	一、八、四八、〇一三	一、八、四八、〇一三
三、三三三、三〇四	三、九七三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三

第二、外國貿易 (貨物)

(一)、概説

本年の對外國貿易は既記の通り輸出二百八十二萬餘圓、輸入四百六十一萬餘圓、合計七百四十三萬餘圓で、前年に比し輸出百五十一萬餘圓の増進、輸入十五萬餘圓の減退を告げ結局合計に於て百三十六萬餘圓の増進を示した、之を對國別に觀れば、輸出は中華民國、滿洲國、埃及、米國、英領海峽殖民地、香港、露領亞細亞、比律賓諸島等が主で輸入は中華民國、滿洲國、

米國、露領亞細亞、比律賓諸島、英領印度、蘭領印度、暹羅、佛領印度等を主なるものとし、其他保稅工場よりの入荷相當額を算したが、前年に比すれば輸出に於て中華民國、滿洲國、米國、埃及、香港、英領印度、蘭領印度、英領海峽殖民地等増加を告げ、暹羅、布哇等減退し、輸入に於ては中華民國、滿洲國、英領印度、露領亞細亞、好況を呈し、米國、比律賓諸島、英吉利、佛領印度等不況を呈したが、保稅工場よりの入荷にありて大差なかつた。

輸出入貿易額主要國別三年對照表 (圓)

國別	昭和八年	百分比	昭和七年	百分比	昭和六年	百分比
滿洲國(關東州を含む)	一、四五六、三五六	10	一、九二二、二八四	33	一、七九、九五	36
中華民國	一、三〇九、三〇三	12	八二二、八七七	1	一九九九一	0
香港	三二七、六二二	3	一〇七、三三三	1	一五二、四七七	3
英領印度	七九、八四六	11	一〇七、三三三	1	一六七、五一六	4
英領海峽殖民地	二二四、三八二	3	一一四、一〇六	1	一三九、四三九	3
蘭領印度	一〇三、〇七六	1	五三、四六四	1	五八、五七七	1
佛領印度支那	四、六〇五	0	三九、九二〇	1	一、一九、九三二	3
露領亞細亞	五、五八、七九四	8	五、一七、〇三〇	9	七三、六二五	3
比律賓諸島	二二七、八五九	2	三三、二二二	4	七三、六二五	3
暹羅	八八、三三八	1	一〇、一七九	2	一〇七、六二九	3
英吉利	六五、四四七	1	一一五、八八四	3	一一〇、六二三	3

獨逸	瑞西	北米	濠洲	埃太	其他	保稅	合計
10,119,910	10,200,000	5,677,618	1,333,333	5,333,666	3,667,777	1,000,000	1,000,000
0	0	8	0	0	0	100	100
8,500,000	1,388,900	1,459,977	5,184,000	3,333,333	5,000,000	1,000,000	1,000,000
0	0	3	0	0	1	100	100
3,117,915	1,799,666	6,699,711	6,184,000	2,888,889	3,111,111	1,000,000	1,000,000
0	0	1	0	0	0	100	100

(二) 國別貿易

關東州、滿洲國及中華民國

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
鮮魚	斤	18,733	23,337	△ 18,644	2,273	1,604	△ 13,733
		7,870	3,337	△ 1,844	5,933	1,604	△ 13,733
		1,873	3,337	△ 1,844	3,333	1,604	△ 13,733

品名	單位	國別	數量		增減(△)	價額		增減(△)
			昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
煮干	斤	關東州	1,477,755	2,667,258	△ 1,177,503	7,610	9,788	△ 2,178
		滿洲國	1,566,234	2,667,258	△ 1,101,024	3,458	9,788	△ 6,330
		中華民國	1,697,000	6,444,500	△ 4,747,500	110	6,444	△ 6,334
乾鱈	同	同	10,000	6,444	△ 3,556	1,000	6,444	△ 5,444
其他魚	同	同	1,151,111	7,777,777	△ 6,626,666	8,888	11,111	△ 2,223
鹹鱈	同	同	1,120	3,011,988	△ 1,900,868	1	1,900	△ 1,899
鹹鱈	同	同	2,237,777	3,011,988	△ 774,211	2,237	3,011	△ 774
鹹鱈	同	同	4,666,666	1,011,988	△ 3,654,678	1,111	1,011	△ 100
鹹鱈	同	同	4,666,666	1,011,988	△ 3,654,678	1,111	1,011	△ 100
鹹鱈	同	同	1,733,333	1,011,988	△ 721,345	1,011	1,011	△ 0

輸入主要品二年比較表

品名	單位	國別	數量		價		增減(圓)
			昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	
粟	百斤	關東州 滿洲國 中華民國	111	224,290	51	25,954	△ 89,121
黍	同	同	993	11,353	5,456	48,107	△ 42,651
高粱	同	同	229	△	630	8,863	△ 6,533
小豆	同	同	490	000	1,732	1,101	△ 671
大豆	同	同	3,594	1,332	17,568	6,881	△ 10,687

綠豆	百斤	關東州 滿洲國 中華民國	1,142	2,433	210	1,104	△ 1,329
落花生	同	同	1,142	1,142	1,142	1,142	△ 0
胡麻子	同	同	1,142	1,142	1,142	1,142	△ 0
蕃椒	斤	同	2,000	1,142	1,142	1,142	△ 858
天日鹽	百斤	同	4,718	8,550	7,311	5,001	△ 3,549
綿織糸(單糸)	斤	同	1,142	2,783	1,142	1,142	△ 1,641



香港
輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
計		同	同		同	同	
其他ノ諸品		關東州			1,112,711	1,112,711	△
小包郵便物		同			1,112,711	1,112,711	
再輸入品		同			1,112,711	1,112,711	

支那麻布	方碼	關東州	55,739		2,670,844	2,670,844	
石炭	噸	同	12,372		1,210,000	1,210,000	
硝子板(無色平面ノモノ)	方呎	同	10,000		1,000,000	1,000,000	
其他ノ硝子及同製品	同	同	10,000		1,000,000	1,000,000	
飼料	百斤	同	1,000		100,000	100,000	
豆糟肥料	同	同	1,000		100,000	100,000	

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
陶磁器					三六、四五四	一八、八五五	△
小包郵便物					二七、五三九	一八、八六六	△
計							

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
砂糖	斤	六〇			三三〇	五三一	△
其他ノ諸品					三	三三	△
計							

英領印度

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
土狀黑鉛	百斤	八五			二六	二〇	△
金屬及同製品					一〇、二二〇	一、七、一、二	△
計							

品名	單位	昭和八年	昭和七年	增減(△)	昭和八年	昭和七年	增減(△)
小包郵便物					二、八、七、一	二、八、七、一	
計					二、八、七、一	二、八、七、一	

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
葉煙草	斤	二八、一、三三	三三、三三三	△	一、四、四、〇、一	一、六、六、〇、一	△
葉煙草	斤	三、三、四〇			〇、二、三、〇	〇、二、三、〇	
葉煙草	斤	一、四、三、九一			六、二、一、七八	六、二、一、七八	
計					六、二、一、七八	六、二、一、七八	

英領海峽殖民地

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
金屬及同製品					三三、九、一五	三三、九、一五	
小包郵便物					一、九、〇、三三	一、九、〇、三三	
計					三三、九、一五	三三、九、一五	

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
生インヂア ラツパー類	斤	一、六九八			四一四	四一四	
其他ノ諸品					九	九	△
計					四一三	四一三	

蘭領印度

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
林檎	斤	四〇〇,〇〇〇			四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	
鉄器					一、〇〇〇	一、〇〇〇	
瑠璃					一、〇〇〇	一、〇〇〇	
小包郵便物					九、九七〇	九、九七〇	
計					四〇一,〇〇〇	四〇一,〇〇〇	

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
生インヂア ラツパー類	斤		四〇〇,〇〇〇	△	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	△
小包郵便物					九、九七〇	九、九七〇	
計			四〇〇,〇〇〇	△	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	△

佛領印度支那

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
小包郵便物					四、〇〇〇	四、〇〇〇	
計					四、〇〇〇	四、〇〇〇	

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
天日鹽	百斤		四、七七一	△	四、七七一	四、七七一	△
計			四、七七一	△	四、七七一	四、七七一	△

石	噸		1,100	△	1,600			1,100	△	1,600
計										

露領亞細亞

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額				
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年			
精米	石	295	50	△	6,995	1,174			
金屬及同製品					34,098	26,347			
其他ノ諸品					2,993	495			
再輸出					7,000	11,000			
計					41,986	40,011			
							△	1,969	1,969

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額				
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年			
原木	立方尺	90,448	99,644	△	43,926	56,193			
							△	12,267	12,267

比律賓諸島

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額				
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年			
板	立方尺	3,013	2,093	△	24,033	15,693			
揮發油	瓦	19,513	19,526		92,666	63,766			
燈油	同	43,512	23,129	△	12,353	4,212			
其他ノ諸品					221	12			
計					107,213	83,683			
							△	23,530	23,530

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額				
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年			
乾糖	斤	20,000	13,000	△	10,400	1,210			
珠瑯鐵器					11,215	11,000			
其他ノ諸品					4,700	77			
小包郵便物					4,400	1,114			
計					20,715	2,401			
							△	18,314	18,314

暹羅

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
葉煙草	斤	1,773,050	5,748,368	△	101,465	101,465	△
計					1,280,927	1,280,927	△

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
玳瑁鐵器	位				9,012		△
小包郵便物	斤				20,000	55,358	△
計					29,012	55,358	△
米及粉	百斤	1,673	9,623	△	21,517	10,115	△

英吉利

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
植物性油	斤	2,233	3,659	△	2,929	4,788	△
其他ノ諸品					9,448	4,788	△
計					12,377	9,576	△

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
蟹罐詰	打	11,100			2,122		△
土狀黑鉛	百斤	2,020			11,111	1,200	△
小包郵便物	斤				11,111	1,200	△
計					22,233	2,400	△
威士忌及 ブランド	利	105	458	△	476	1,431	△

品名	單位	數量		價額 (圓)	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
毛織物	方碼	466	393	6,328	3,471
綿織物	方碼	466	393	3,937	3,471
毛製物	同	466	393	1,351	916
ヤシ	同	466	393	785	585
セル	同	200	101	101	585
ゲス	同	65	101	101	585
アルバカ、オルレア ンス及ウストル ス類	同	8,653	10,955	2,300	10,955
其他ノ布帛及同製品	同	39,369	24,973	75,604	31,013
紡織機械類	斤	3,877	768	4,645	1,111
其他ノ機械及 同部分品	斤	8,563	3,877	7,688	1,111
金屬製品	斤	1,636	2,498	1,011	1,011
其他ノ諸品	斤	1,388	1,388	1,388	1,388
小包郵便物	斤	1	1	54,368	1,388
計				113,664	59,296

佛蘭西

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額 (圓)	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
小包郵便物	斤	1	1	775	775
計				775	775

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額 (圓)	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
酒精含有飲料及酒精 其他ノ諸品	利	468	468	15	165
計				15	165

獨逸

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額 (圓)	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
土狀黑鉛	百斤	353	353	820	820
小包郵便物	斤	1	1	820	820
計				820	820

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
藥材類及爆發藥					六、八二四		六、八二四
學術器及諸機械類					二、一七〇	六、二七四	△
其他ノ諸品					三、三六	一、三九六	△
計					〇、九六〇	七、〇三〇	△

瑞 西

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
葉煙草	斤	一、〇〇〇			一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇
小包郵便物					一、三	一、三	△
計					一〇、〇一三	一、三	△

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
綿平織布	方碼		四、五、五八九	△	一、三、七六一	一、三、七六一	△
計					一、三、七六一	一、三、七六一	△

北米合衆國

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
蟹罐詰	打	五三、九五二	一、二、六四		一、五、一、七五	三、七、八〇	△
其他魚介罐詰	同	三、六〇九	三、九六〇		五、四七〇	五、九一〇	△
油 脂 蠟	斤		〇、七三	△	—	一〇〇	△
土狀黑鉛	百斤	一四、九三	一、八〇〇		三、一三	三、一八〇〇	△
小包郵便物					八〇、九三〇	一四六、三九三	△
計					一、七、三、〇	一、七、七、八三	△

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
業煙草	斤	一八九,二二九	一八九,二二九	△	—	101,394	101,394
原油及重油	瓦	六,八三三	二七,七九三	△	1,493	4,394	1,901
揮發油	同	六三三,〇九五	三三一,五〇〇	△	三三,六二四	115,154	110,154
燈油	同	七四,八〇五	三,一六四,二五五	△	二九,九一三	九六,六六六	九三,七五三
輕油	同	—	二,一六四,二五五	△	—	九六,六六六	九三,七五三
機械油	同	—	六九,九三〇	△	—	二四,一七九	二四,一七九
巴拉フィンワックス	斤	一七,八七七	一五九,一四三	△	三,七八三	二,一七二	一七,三八八
藥材化學製藥及同調合品	同	七,三六三	六七,四六三	△	一,三八〇	六,三六八	四,九八八
機械類	同	—	—	△	八,四三二	八,四六六	四,五
其他ノ諸品	同	—	—	△	八,五八一	七,四七	七,八七
小包郵便物	同	—	—	△	三三	17,111	17,111
計	同	—	—	△	二九五,三三三	1,181,194	986,681

加拿大

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
小包郵便物	同	—	—	△	1,114	1,114	—
計	同	—	—	△	1,114	1,114	—

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
壁紙	斤	—	九七三	△	—	—	九七三
原木	立方尺	—	八,四八〇	△	—	—	八,四八〇
其他ノ諸品	同	—	—	△	六	六	六
計	同	—	—	△	六	六	六

濠太刺利

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		增減(△)	價額		增減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
土狀黑鉛	百斤	七〇七	—	△	104	—	104
計	同	七〇七	—	△	104	—	104

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
蠶繭詰	打			五、七六〇	—
金屬製品				九四〇	—
小包郵便物				一、九一九	一、三二九
計				九、六〇〇	一、三二九
				五、七六〇	—

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
藥材化學藥製藥類				六八九	—
布帛及同製品				二九八	—
衣類及同附屬品				一、五三三	七〇
其他ノ諸品				一、三三九	一、〇一〇
小包郵便物				一、五五	三、七三
計				五、〇〇	五、〇〇
				一、八八	—

布哇

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
魚介罐詰	打		1,000	—	一、八六六
布帛及同製品				九六	—
小包郵便物				二、三三	三、三三
計				二、四二八	三、三三
				三、三三	—

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
衣類及同附屬品				五〇	—
小包郵便物				三	—
計				五三	—
				—	—

埃及

輸出主要品二年比較表

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
葉煙草	斤	八七、七三五	六〇、三三七	二八、四三六	五三二、六三四	一九四、七三六	三三七、九〇八
小包郵便物	計				五三三、六九九	一九四、七三九	三三九、九六〇

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
天日鹽(碎カザルモノ)	百斤		五五、四二五	△	二八、五四三		二八、五四三
計					二八、五四三		二八、五四三

保稅工場

輸出なし
輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
原油及重油	瓦	八、五九八、一六六	七、九〇三、三三三	六九四、八三三	七一〇、三〇九	九五七、四七五	三四五、五三三

(三) 輸出貨物

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
挽板材	立方尺		五六、三三〇	△	五六、三三〇		三三、三一九
其他ノ木材	同		九〇、八六四	△	九〇、八六四		三〇、四〇九
薪計	百斤		五、九三六		五、九三六		一、〇七三

本年の輸出貿易は本邦爲替相場の暴落と、インフレーション熟進に依る事業界の好轉とで、高關稅に依る拘束貿易の情勢を壓倒して、重要品殆ど全面的躍進を遂ぐるに至り、總額二百八十二萬餘圓を算し前年に比して百五十一萬七千餘圓(一割強)の増加であるが、之を主要相手國別に觀れば、滿洲國(關東州を含む)六十二萬五千餘圓を算して首位を占め、次で中華民國五十七萬九千餘圓、埃及五十三萬二千餘圓、北米合衆國二十七萬二千餘圓、香港二十二萬七千餘圓、英領海峽殖民地二十一萬三千餘圓、英領印度十一萬三千餘圓、蘭領印度十萬三千餘圓、比律賓諸島、露領亞細亞各四萬餘圓等が主なるもので、之を前年に比較するに、滿洲國、中華民國を併せ六十一萬七千餘圓の増加を示し、即ち前年來滿洲景氣の出現と、銀價の昂騰と相俟つて排日貨に依る對支貿易の不振を補ひ、生命線たる水産貿易好轉の跡著しく、又埃及は葉煙草取引の好況に依り三十三萬七千餘圓を増加し、米國は蟹鱈、黑鉛等の出増に依り九萬四千餘圓の増進を告げ、香港は小包郵便物で十四萬五千餘圓、其他英領印度、英領海峽殖民地、蘭領印度等各約十萬圓、及比律賓諸島約二萬圓の孰れも増加を示したのは、輸出品として最近注目を集むる珽瑯鐵器の進出に依るものである、右直接貿易の外、取引關係或は航路の都合等から水産物を首め、陶器、罐詰、黑鉛其他一度内地を経て輸出されるものも可なり多いのであるが、此の缺點は近く實現を見んとしつゝある南洋直通航路の開始に依り、漸次改善されることゝならう。

輸出國別貿易額を二年比較表示すれば左の通り。

輸出貿易額國別二年比較表 (圓)

國別	昭和八年		昭和七年		増減(△)
	輸出	輸入	輸出	輸入	
滿洲(關東州ヲ含ム)	六三三、六〇九	一、〇〇九、〇〇〇	五七九、一四八	一、〇〇九、〇〇〇	△ 五四、四六〇
中華民國	二七、五三九	一、〇〇九、〇〇〇	八、八五六	一、〇〇九、〇〇〇	△ 一八、六七三
香港	二二、五九九	一、〇〇九、〇〇〇	二〇、三三五	一、〇〇九、〇〇〇	△ 二、二六四
英領印度	二二、九六八	一、〇〇九、〇〇〇	二一、〇七二	一、〇〇九、〇〇〇	△ 一、八九六
英領海峽殖民地	一〇、〇七〇	一、〇〇九、〇〇〇	九、八七一	一、〇〇九、〇〇〇	△ 二〇〇
蘭領印度	四、六〇五	一、〇〇九、〇〇〇	四、三三五	一、〇〇九、〇〇〇	△ 二七〇
佛領印度支那	四、五六六	一、〇〇九、〇〇〇	四、〇七二	一、〇〇九、〇〇〇	△ 四九四
露領亞細亞	四、二六四	一、〇〇九、〇〇〇	三、二二六	一、〇〇九、〇〇〇	△ 一、〇三八
比律賓諸島	九、〇三九	一、〇〇九、〇〇〇	五、三五八	一、〇〇九、〇〇〇	△ 三、六八一
暹羅	一一、〇五九	一、〇〇九、〇〇〇	四、三三九	一、〇〇九、〇〇〇	△ 六、七二〇
英吉	七、七五	一、〇〇九、〇〇〇	九、四五九	一、〇〇九、〇〇〇	△ 一、二〇〇
佛蘭西	七、七五	一、〇〇九、〇〇〇	三、四三三	一、〇〇九、〇〇〇	△ 四、三一七
計	一、〇〇九、〇〇〇	一、〇〇九、〇〇〇	一、〇〇九、〇〇〇	一、〇〇九、〇〇〇	△ 〇

由來絶對優越せる通商關係を保持した對支貿易は、滿洲國の獨立に依る對滿貿易新規計上に依て對中華民國、對滿洲國等に分割され、又親米熱の擡頭に依る對米貿易の進展、特に南洋貿易の格段なる躍進に次で、新市場開拓に依るアフリカ貿易の新發展等あつて、叙上の通り各國商勢に多少變動を來したが、暹羅、獨逸等一、二不振を見たる外、各國概して好勢を迎つた、斯く

多年の沈衰を脱却して對外輸出貿易の好轉したことは、同時に鮮内事業經營の合理化、生産販賣組織の改善等成果を收むる上に多大の効果ありしこと云ふ迄もない。
左に主要輸出品を比較し、更に其の重要なものに就き消長の狀況を概説する。

輸出主要品二年比較表

品名	昭和八年		昭和七年		増減(△)
	數量	價額	數量	價額	
米	四、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	五、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	△ 一、〇〇〇
鮮魚	七、七〇〇	一、一七、〇〇〇	一、三三三	一、一七、〇〇〇	△ 六、三六七
乾魚	四、七〇〇	一、一七、〇〇〇	一、七五七	一、一七、〇〇〇	△ 三、九四三
魚鱈	四、七〇〇	一、一七、〇〇〇	一、九一六	一、一七、〇〇〇	△ 二、七八四
魚鱈計	一、一七、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	三、六七三	一、一七、〇〇〇	△ 八、〇二七
鹹魚	一、一七、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	一、〇一八	一、一七、〇〇〇	△ 一、一八二
魚鱈計	一、一七、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	二、〇三六	一、一七、〇〇〇	△ 八、九六四
魚鱈其他	一、一七、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	一、〇一八	一、一七、〇〇〇	△ 一、一八二
魚鱈其他計	一、一七、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	二、〇三六	一、一七、〇〇〇	△ 八、九六四
明太魚卵	一、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	△ 〇

全計	再輸出	小包郵便物	其他諸品	肥料	海產	藥材	木材	船舶及諸機械	時計、學術器、銃砲、	金屬及同製品	陶磁器	其他ノ礦物及同製品	黑鉛	履物	絲織物	糸織繩索及同材料
百斤	百斤	百斤	百斤	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

藥材化學藥類及	油類	業類	食物	及	蠶絲	雜貨	菓子	果實	清計	其他	乾海	海參	鱈魚	乾菜	淡菜
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

◎輸出重要品

煮乾鱈

本品主産地當港附近を首め統營近海は、本年出廻時期に際し、再三暴風水害の打撃を蒙り漁況良好でなかつたが、併しインフレ景氣を背景に、チリメンの如きは神戸經由布哇筋の買進に先づ人氣を喚起し、中小羽等市價の昂騰に出廻を促すと共に、滿洲輸出は同地に於ける内鮮人の移住増加、或は入國滞在者多きに伴れ取引上好影響を及ぼし、慶南産業獎勵館を介し相當大量注文を見た外、日支停戰協定以來上海方面に對する取引好轉と相俟つて出荷増進を示した、言ふ迄もなく本品は當港に於ける輸移出水産物中の王座を占むる重要品なるに拘らず、生産不況は地場高相場を現はすに至り、泉州地方より内地産の移入を見たのは近頃珍らしき現象であり、其額六、七萬斤を下らない見込である、之等を鮮産代用品として大連其他滿洲地方へ輸出された程であるから、内地移出は無論一般不振を免れなかつた。右の狀況で相場は各品を通じ前年より一段高を呈した。

輸出煮乾鱈數量價額別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	一四七、七五五	二九六、一五八	四七、六一〇	九六、七四八
滿洲	一五六、三三三	二九六、一五八	四二、四八八	九六、七四八
中華民國	一九、七〇六	二九六、一五八	五三、一八六	九六、七四八
計	四七三、六八八	二九六、一五八	一四三、二八四	四六、五〇六
				増減 (△)
				四六、五〇六

移出煮乾鱈仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	二七三、三二八	七四、五三三	一〇三、九七一	二四六、四四九
神戸	一一一、一〇四	一六、一六二	四四、四一三	六八、一一三
名古屋	一〇、〇〇〇	一一、六九九	三、四七三	三、八一七
東京	七、〇〇〇	二二、〇三三	二、六一五	六、七九六
下關	二、〇一〇	二、〇一〇	七六四、七三三	七八四、三三三
門司	一一、八〇七	一六、七五八	二、四八三	五、七四一
博多	一一七、五六〇	〇七、九	三、七七一	〇七、四
長崎	一六、四一七	五、一一四	一、一三三	一、七四二
臺灣	一八、八四三	六八、二〇一	〇〇、六	一八、七六三
其他	一、五三九、二四五	一、六七六、〇八八	五二七、九五二	五五七、〇三三
計	四、八八五、二七三	五、二七五、八三六	一、三三三、六三六	一、三三三、六三六
				増減 (△)
				一〇〇、一八六

輸移出煮乾鱈數量月別二年對照表 (斤)

月次	昭和八年	昭和七年	月次	昭和八年	昭和七年
一月	二七七,三九〇	二九五,九二四	八月	一四九,七八三	一四〇,三〇〇
二月	八五,六八二	八七,二七八	九月	七五,三六六	五五,一六八
三月	八八,九三七	六八,二七九	十月	四一九,二九	七六九,六三〇
四月	八九,四八一	四六,六三二	十一月	三二五,〇一一	四九六,八一四
五月	九二,三四五	八三,九七七	十二月	五三七,二九	三九六,三九
六月	一七四,九九九	一六二,四八一	合計	四,三〇,三四	四,八七,四四
七月	八八,六三四	七四,五七〇	平均	三,〇八,九八	五,七二,九
合計	七〇五,三六六	一,三三九,九三八	均計	四二二,五八〇	四四四,三三三

備考 本表には觀察の便宜上移出をも計上してある。

煮乾鱈平均相場月別二年比較表

月次	大		中		小		チリメン	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
一月	七,〇〇	七,〇〇	一〇,〇〇	一〇,〇〇	一八,〇〇	一八,〇〇	—	—
二月	七,〇〇	七,〇〇	一〇,〇〇	一〇,〇〇	一八,〇〇	一八,〇〇	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—	—
四月	—	—	—	—	—	—	—	—

鹹 鯨

月次	昭和八年	昭和七年	月次	昭和八年	昭和七年
五月	六,〇〇	七,〇〇	十一月	一八,〇〇	一八,〇〇
六月	七,五〇	七,〇〇	十二月	一八,〇〇	一八,〇〇
七月	九,〇〇	七,〇〇	合計	一八,〇〇	一八,〇〇
八月	八,〇〇	七,〇〇	平均	一八,〇〇	一八,〇〇
九月	一〇,〇〇	七,〇〇	均計	一八,〇〇	一八,〇〇
十月	一〇,〇〇	七,〇〇			
十一月	一〇,〇〇	七,〇〇			
十二月	一〇,〇〇	七,〇〇			
合計	九,三五	六,九一			

産地慶北に於ける本年の漁況不振から出廻薄く、出荷數量に減退せしも、出廻當初より前年に比し五、六割方も高値を辿つたので、價額に於ては尠なからざる増進を來した、一般商況は例年の通り大消費市場を背景とする青島方面との取引最も大量的に行はれたが、従來餘り振はなかつた滿洲國仕向は、實物宣傳に依て米國鯨を退縮せしめ、北海道、カムチャツカの鹹鯨に對抗して販路擴張に努めたる結果、前年より著しく取引高を増した、由來滿洲人は鹽不足や地勢の關係上、鮮魚より鹹魚を好む傾向あり、且つ比較的値段安で而も小形の鹹鯨等よりも一層歡迎を受けつゝある本品は、何と云つても最も大衆向の評がある。

輸出鹹鯨數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	11,210		11,210	
滿洲	2,437,315	3,011,988	2,158,315	1,540,866
中華民國	2,817,750	3,011,988	3,331,366	1,450,866
計				
			7,608,331	7,608,331
			7,608,331	7,608,331
			7,608,331	7,608,331

輸所向鹹鯨平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月別												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
鹽鯨 (浦項産)	十貫匁	4,000	4,500	3,100											3,877	2,556

淡 菜

本品主要需要地は南支方面であるが、本年産地統營方面春先不漁なりしと、上海事變後の排日貨に崇られ春來不況を脱せず上半期は僅かに三井物産の手で漢口地方へ小口物の疎ら出荷を見た位のものであつたが、九月の漁況解禁後より南支産地の好漁と、南支方面の安定と相俟つて上海方面との引合至極順調に運ばれ、十、十一月の交は近頃見ない素晴らしき勢で出荷好調

を辿り、爲に輸出高を増進すると共に内地仲繼出品も亦同様好況を呈したが、料理法の相違からか或は又高値關係からか、滿洲輸出は一向見込薄の状態にて甚だ不振を呈した。相場は華商の買進に第一回初入札より七圓程度の開きを見せて市況強調を辿り、昨年より二割から四割程度の昂騰を告げ、全年を通じ尙平均一割内外高値を呼んだ。

輸出淡菜數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	1,114	36,628	465	9,733
滿洲	2,368	26,628	917	9,733
中華民國	58,683	26,628	2,717	9,733
計			3,899	29,200
			18,766	18,766

移出淡菜仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神戶	36,350	37,710	10,211	9,200
下關	3,000	3,000	1,000	1,000
長崎	3,650	3,650	1,551	1,551
			12,762	12,751
			12,762	12,751

計	其 他
26,100	200
26,300	1
21,000	200
12,000	0
10,000	0

淡菜平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	淡 (二等合格品)														
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均	
淡	百斤	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

乾 鰯

本品も亦支那人の嗜好に適し支那料理に廣く用ひられるが、輸出向としては殆ど剝鰯である、市況は支那に於ける高率關稅查證制度の實施等から益々沈滞の氣運に見えたけれども、本年産地法聖浦、羅老島の外、統營地方の漁況頗る好調を告げ、秋物出廻良好を呈すると共に、日支停戰協定以來日貨排斥の緩和に依て輸出に主力を傾注せられたる結果、豫想外出荷好成绩を舉げた。仕向地は前年と變りなく上海を主とし、大連、其他奉天方面も多少の引合を見たが、總じて滿洲方面との取引は安値付けられ引合兎角困難の様様であつた。相場は煮乾鰯の生産不況も手傳ひ、環境の良好から手堅く突張つたが、年末に至り南支方面福建政府獨立の影響を受け入注杜絶買氣を見ず、相當ストックを擁したことゝ先安を氣構へられた。内地移出も秋期漁況の良好と對支關係の好轉とで、皮付鰯、櫻鰯、剝鰯等を通じ前年より著しく増進を示した。

輸出乾鰯數量價額國別二年比較表

國 別	數量		價 額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關 東 州	3,485	13,000	1,953	5,611
滿 洲 洲	4,894	13,000	3,190	5,611
中 華 民 國	10,701	8,677	3,190	5,611
計	19,080	34,677	11,000	16,833

移出乾鰯仕向地別數量價額二年比較表

仕 向 地	數量		價 額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神 戶	5,781	15,000	2,535	4,665
下 關	10,010	8,713	4,461	1,826
門 司	8,233	5,444	3,444	1,826
長 崎	408	5,944	2,979	8,580
臺 灣	1,487	2,878	1,573	7,711
其 他	22,115	11,330	3,882	7,711
計	44,102	51,309	18,882	34,001

乾鰈平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
櫻(一等合格品)	百斤	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
櫻(二等合格品)	百斤	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
刺(同)	百斤	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000

鱈 鱈

本品は支那人獨特の嗜好品であるが、久しく對支問題未解決の爲、取引全く暗雲に閉され滞貨に滞貨を重ね、本春に入り尙殘品整理に汲々たる有様で、市場出廻品は昨年或は一昨年之製造にかゝるもの多く、爲に終始叩かれ勝も出ず至極不況を呈せしも、中、南支の排日緩和に依て七、八月頃より俄かに買氣擡頭市況一變活氣を帯び、相場も猛然本格的に調子付き、本年秋の製品は殆ど賣拂の活氣を見せて、出荷は前年より可なり増加を告げたに拘らず、何分前半期相場の不勢より價額に多少減退を免れなかつた、尤も下半期に入つて賣行の好轉に思惑筋も出で直接輸出の外、神戸や長崎經由仲繼輸出品の好注に依り内地移出品も相當増進を示した。

輸出鱈數量價額國別二年比較表

國 別	數 (斤)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關 東 州	14,740	14,740	8,740	8,740

仕 向 地	數 (斤)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神 戶	5,560	10,710	3,284	7,695
下 關	1,020	110	8,970	1,910
長 崎	1,560	4,730	8,815	1,335
其 他	1,530	1	6,110	1,010
計	9,670	16,550	26,179	10,950

移出鱈仕向地別數量價額二年比較表

品 名	柄	單位	數 (斤)												價 額 (圓)	
			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
ヤ	鱈(大)	百斤			10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
同	鱈(中)	百斤						5,000						5,000		
同	鱈(小)	百斤				3,500	3,500							3,500		

鱈平均相場月別一覽表

仕 向 地	數 (斤)												價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神 戶	5,560	10,710	3,284	7,695	8,970	1,910	8,815	1,335	6,110	1,010	26,179	10,950	27,569	8,780
下 關	1,020	110	8,970	1,910	8,815	1,335	6,110	1,010	1,010	1,010	10,950	10,950	7,570	
長 崎	1,560	4,730	8,815	1,335	8,815	1,335	6,110	1,010	6,110	1,010	26,179	10,950	7,570	
其 他	1,530	1	6,110	1,010	6,110	1,010	6,110	1,010	6,110	1,010	26,179	10,950	7,570	
計	9,670	16,550	26,179	10,950	26,179	10,950	26,179	10,950	26,179	10,950	26,179	10,950	26,179	

カセ鱈(大)	同(中)	同(大)	マバカ鱈(大)	百斤	
				昭和八年	昭和七年
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000
55,000	30,000	30,000	80,000	55,000	58,000

海 參

本品は鱈鱈と共に支那人特殊の嗜好品で販路も廣汎に渉れるが、就中有力なる得意市場上海方面との取引頓挫に依り春來沈滞状態を脱せず、而も日支停戦協定以來大連、天津地方を首め、上海方面の好轉に活氣回復の曙光を見たにも拘らず、皮肉にも慶南産地の不漁と、江原、慶北沖合赤潮襲來に依る漁獲の不振とで、賣り度し品無しと云ふ状態に陥り、一面滿洲方面にも新市場開拓に努力したが、元山方面物に押され、加ふるに露領沿海州産の爲に相場惨落を見る等、當業者は全く踏んだり蹴つたりの羽目に遭ひ、商勢擡頭の機會乏しく、多大の期待を裏切られ、内地移出も不振に終つた。

輸出海參數量價額國別二年比較表

國別	數 (斤)		價 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	11,220	10,211	11,352	11,352
滿洲	4,733	10,211	5,596	11,352
中華民國	9,338	10,211	9,000	11,352
計	25,291	30,633	25,948	34,056

移出海參仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數 (斤)		價 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	200	300	200	300
神戸	3,800	10,200	1,680	2,800
下關	5,700	5,100	5,400	4,800
長崎	1,000	—	1,000	—
其他	8,391	4,411	8,391	4,411
計	19,091	15,011	16,171	11,311

海參平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
(一等品)	百斤	110,000	95,000	115,000	115,000	107,000	105,000	113,000	115,000	—	107,000	100,000	105,000	105,000	107,000

鮑 罐 詰

本品は近年原料高、製品安を辿り、且つ南鮮主産地慶北が前年來原料鮑の採取禁止等に依り、工場筋尙休縮せるもの多く、春來銀地相場の昂騰も格別刺戟を與へず、依然活氣乏しかつたが、五月日支停戦協定を契機として、支那市場を主要需要地と

する本品取引上に大きな影響を與へ、本品活動期に屬する下半期に入り市況全く様變りを呈し、慶南、慶北物は勿論江原道物等前年、前々年産の閑物に至るまで破竹の勢で出廻を促すと共に、製品殆ど一掃の状態で出荷増進を見た、主なる仕向地は天津上海地方であるが、輸出増進の結果内地移出は稍減少の方であつた、尙輸出品中には朝鮮物の外、内地物も幾分含まれて居る。相場は上海方面の買進に七月以來強調を持續したが、内地四十匁詰罐詰の打撃に依り年末多少引弛みを見せた。

輸出鮑罐詰數量價額國別二年比較表

國別	數量		價額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	五五三	三、三八四	一、七六六	一、五九五
滿洲	四四四	三、三八四	一、四六七	一、五九五
中華民國	一三、五七三	三、三八四	五〇、〇〇〇	四三、〇〇〇
計	一四、五六八	三、三八四	五二、〇三六	四八、〇四五

移出鮑罐詰仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量		價額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神戶	一、七四九	一、八二〇	七、〇六〇	五、〇九五
下關	一〇〇	一〇〇	二、〇〇〇	一、九九五

輸出鮑罐詰平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
鮑六十匁入(二等)	一箱四打	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇
長崎		一六四														一六四
其他		六														六
計		一七〇														一七〇

蟹 罐 詰

本品輸出の増進は爲替關係に依る市場の好轉に加ふるに、從來米國方面仕向のものを内地に於て輸出手續して居たのが、本年當港に於て手續の上出荷することゝなつたのも一つの原因であり、又當地水産製品検査所の検査成績の向上にも因るが、生産統制上産額増加を見ず、同所本年の受檢数はトラバ一千九百九個、ズワイ一百九十七個、毛蟹八千十五個で前年に比しトラバ一百三十六個、ズワイ一百八十三個、毛蟹一千三十個の各減退を來すと共に、特殊存在である毛蟹は製法上改良進歩の跡顯著で、内地産トラバを牽制し米國を首め、英國、濠洲、波蘭、關東州、滿洲等の各地に涉り躍進したが、潑刺たる海外輸出が崇つて遂に供給に應じ切れず、地場は著しく品不足を來し内地トラバの移入を見た程で、之等内地産を滿洲方面へ軍需向に輸出されたものも少くなかつた、叙上の状態で内地移出は減退したが、相場は前年より三割以上の値上りである。

輸出蟹罐詰數量價額國別二年比較表

國別	數			價			額		
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)
關東州	三,二二六	—	—	八,八六二	—	—	—	—	八,八六二
滿洲	—	三	—	三九四	—	—	—	—	三九四
英吉利	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北美合衆國	—	—	—	—	—	—	—	—	—
波濠洲	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三,二二六	三	—	九,二五六	—	—	—	—	九,二五六

移出蟹罐詰仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數			價			額		
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)
大坂	一,二二七	—	—	三,九八二	—	—	—	—	三,九八二
神戶	—	—	—	—	—	—	—	—	—
門司	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺灣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一,二二七	—	—	三,九八二	—	—	—	—	三,九八二

輸出蟹罐詰平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
毛蟹(二等)	八打箱	三,三〇〇	三,三〇〇	三,三〇〇	三,三〇〇	三,三〇〇	三,三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	三,三〇〇	三,三〇〇
半蟹(二等)	同	四,八〇〇	四,八〇〇	四,八〇〇	四,八〇〇	四,八〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	四,八〇〇	四,八〇〇
五タラバ蟹(二等)	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

葉煙草

鮮内で生産する内地種葉煙草は品質頗る良好で、例年本場埃及へ輸出し好評を博しつゝあるが、本年埃及の外、瑞西方面と全州産、河東産等の大量契約行はれ出荷激増を示した。斯く海外注文の激増は爲替安の生んだ吉報とも見るべきだが、一面品質が認められ、其の捨て難い味が外人達に判つて來た譯で、埃及では高級煙草の代用を傳へられて居る。

輸出葉煙草數量價額國別二年比較表

國別	數			價			額		
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)
埃及	八七,七三三	六〇,三三七	二七,三九六	一,八四三	一,九四七	—九四	一五七,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	—一二,〇〇〇
瑞西	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	八七,七三三	六〇,三三七	二七,三九六	一,八四三	一,九四七	—九四	一五七,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	—一二,〇〇〇

移出葉煙草仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
名古屋	—	一四五、八〇〇	—	四九、〇八一
東京	二四六	三八八、九七〇	△	一五五、七五九
博多	九四、四〇〇	八一、八〇〇	△	二九、九一〇
其他	一三七、三〇〇	五三九、四〇六	△	一五六、七三七
計	三三二、八〇六	一、一八一、七〇七	△	三三三、九六〇

綿織物

本品の大部分は當地朝鮮紡織會社製品生粗布であるが、同社製品は從來全く内地産と拮抗し鮮内取引に主力を注ぎしも、本年初頭より滿洲方面に手を延ばしたる結果、海路或は陸路に依り輸出漸増の形勢を辿り、而も日支停戦に依る北支那市場の好轉、滿洲國の安定等相俟つて出荷著しく増進を示した。何分綿絲布界に大問題を惹起した印棉不買も、本年度所要棉花の大半買付済にあつた朝鮮會社にとっては格別影響なきのみか、インフレ景氣に下半期以來相場急激なる昂騰を見る等、四圍環境の好轉から同社製品本年の市場搬出高は粗布三八、〇〇〇捆、細布六、六〇〇捆を算し、製品殆ど全部賣盡しの好況を呈した。尙移出品は輸出品と性質を異にし、主に請負契約に依て加工の上移出される緋木綿大部分を占むるが、詳細は加工貿易の項に譲る。

輸出綿織物數量價額國別二年比較表

國別	數量 (方碼)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東	六四、九三五	一三、〇〇〇	一四、八八六	三、一八五
滿洲	〇〇〇、一四二	—	八七、九七九	—
布哇	—	〇七	—	△
計	四、三三三	一三、〇〇七	一〇、九六五	三、一八五

移出綿織物仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (方碼)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	三三三、三三九	一八七、〇三五	六六、九九六	三、八八八
神戸	五、六九五	五、一七七	三、二一七	四、三三三
名古屋	三、〇三五	一〇、〇三三	一、二六九	三、〇一〇
東京	一五、八三〇	一七、六五三	七、一六九	八、二九三
關東	三、八八九	一、四七四	五六六	三三
門司	一、五五四	四、五五八	九一七	一、六八八

其 他 計	綿織物平均相場月別一覽表													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
博多	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
其他	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000
計	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000

七八

商標又ハ品柄	單位	綿織物平均相場月別一覽表												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
生シーチング	一反	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
生細布	双替	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000

黒鉛

本品は朝鮮の特産品で忠北、慶北を生産地とし、多く沃川、黄洞地方より出廻り、之が用途は坭塼を初め、塗料、鉛筆、電氣用カーボン、減磨油の材料等であるが、米國景氣の立直りと、内地需要の増進に依て前年來好勢に轉じ、本年も爲替下落とインフレ景氣で直接輸出の爲、外國航路の寄港を促す等、一段好勢を呈し米國方面へ大量出荷を見た外、上海、大連、香港、ポムペー、シドニー、メルボルン、ダーバン方面へ進出を見、世界的活躍の機運に向つた。而も一段事業界の好轉と、最近軍需工業方面の需要旺盛なるに伴ひ、外國輸出の増進と共に内地移出又増加を告げ、好況なりし前年を凌駕する好成绩を収めた。相場も前年秋の値上り以來變化を見ずに押通し、落付を見せて居る。

輸出黒鉛數量價額二年比較表

國別	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	2,384	1,280	22,349	7,455
滿洲洲	11,200	3,322	11,140	11,200
中華民國	925	840	2,621	—
北米合衆國	—	—	—	—
英吉利	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
計	14,509	5,442	36,110	18,655

移出黒鉛仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	1,635	1,555	13,553	17,001
神戸	2,623	5,622	11,100	11,200
名古屋	1,010	—	10,640	—
横濱	2,779	3,779	16,433	18,445
東京	1,010	—	10,640	—
計	8,057	10,956	52,366	46,646

計	黒鉛平均相場月別一覽表													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
教 門 共	一四、七九七	一四、三六七	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六	一五、三三六
計	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七	一〇九、九八七

土 狀 (並)	黒鉛平均相場月別一覽表													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
商標又ハ品柄	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
土 狀 (並)	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇

陶 磁 器

本品輸出の大部分は當地産硬質陶器であるが、支那の排日貨運動、銀貨の暴落、關稅増徴等、各種惡材料の狭撃に取引上深刻なる打撃を蒙りしも、滿洲事變を轉期として滿洲國出現以來日滿親善密接を加ふると共に、滿洲國の海關自主に依つて支那商權を壓倒し對滿輸出の増進と、一面排日緩和に依る下半年以來上海仕向の好轉から、從來の不況回復の状態にあるのみならず、朝鮮産は原料、燃料の豊富、勞銀の低廉等に依り英、獨品等外國品に比し價格割安であり、價格に主眼を置く支那人を相手とする朝鮮産は有利で、對滿洲國、中華民國共に一層伸展を期待せられる。又内地仕向の大部分は取引及輸送關係に依り、一旦神戸方面に移出し、更に輸出に轉ずる内地仲繼品であるが、爲替安に依つて輸出促進の結果移出一層増大を加へた。右の如き狀況にある本品は、元より南洋航路の速急寄港を翹望するもの、一つである。相場は前年に比し幾分強みを見せたが、硬質陶器本年の平均値左の通り。

洋スープ皿 白八吋 一打 六六
 洋肉皿 同 同 六六
 洋スープ皿 同 同 三六
 洋肉皿 同 同 三六
 南洋向品神戸渡値
 滿洲向品釜山渡値

輸出陶磁器價額國別二年比較表

國 別	數		價	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關 東 州			13,042	11,092
滿 洲 洲			11,921	11,011
中 華 民 國			11,011	11,011
香 港			11,011	11,011
計			36,985	34,116

移出陶磁器仕向地別價額二年比較表

仕 向 地	數		價	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪			19,701	19,198
計			19,701	19,198

計		神戶		名古屋		東京		其門	
計		他		屋		司		他	

金屬及同製品

本品中には露領亞細亞向の露油配給に使用せらるゝ空罐等幾分含むが、大部分は昨秋インフレ景氣の刺戟を受けて生れ出た當地朝鮮琺瑯會社の製品琺瑯鐵器である、琺瑯鐵器は昨年十月英領印度に向け華々しきスタートを切つて以來聲價を博し、遠く南洋の外、アフリカ方面に迄進出し、一方滿洲國に地盤着々開拓の状態なるが、近來の爲替安は輸出愈好勢に導き、今や本港輸出重要な地位を占むるに至つた、斯て事業の進展に伴ひ從來の洗面器、ライスボールの外、近頃辨當入、石鹼入等製品種類を殖やし鮮内引合又増加に伴ひ、或程度迄移入防遏も期待され得る形勢にあるが、發展途上の一つの惱みは運賃高の爲、輸出市場に於ける内地製品との競争困難なることであり、又輸出に主力を注げる同社製品として南洋航路船を持たないのは大きな惱みである、相場は銀高關係上、高値を持続し當地年末市價左の如くである。

- 洗面器 (二八種) 一等品 一打 一、八五
- ライスボール (二四種) 同 同 (一、二〇)
- スープロ皿 (二六種) 同 同 一、〇〇

輸出金屬及同製品價額國別二年比較表

國別	數量		増減(△)	價額		増減(△)
	昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
關東州				111,111	111,111	
滿洲				111,111	111,111	
中華民國				111,111	111,111	
露領亞細亞				111,111	111,111	
英領海峽殖民地				111,111	111,111	
英領印度				111,111	111,111	
英領印度				111,111	111,111	
比律賓諸島				111,111	111,111	
暹羅				111,111	111,111	
漆洲				111,111	111,111	
英領東亞弗利加				111,111	111,111	
英領南亞弗利加				111,111	111,111	
計				1,111,111	1,111,111	

輸出琺瑯鐵器國別價額表 (四)

國別	昭和八年	昭和七年 (自十月至十二月)	國別	昭和八年	昭和七年 (自十月至十二月)
滿洲(關東州ヲ含ム)	四八、〇〇六	一、三七五	暹羅	九、〇一五	—
中華民族	一、三三〇	—	澳洲	九、〇〇〇	—
英領海峽殖民地	二二、六一五	—	英領東亞弗利加	八、八四〇	—
英領印度	一〇七、九三三	一三、一七三	英領南亞弗利加聯邦	三、五九八	—
英領印度	五七、七七七	四、〇三五	計	三三、八二八	五九、六〇六
比律賓諸島	三一、七三三	一、〇三三			

(四) 輸入貨物

本年の輸入貿易額は既記の通り四百六十一萬餘圓で前年に比し十五萬餘圓の減少を示したが、輸出増加と對照して入超輕減を齎らした、之を主要相手國別に見れば、滿洲國(關東州を含む)八十三萬餘圓を筆頭に、中華民國七十三萬餘圓之に亞ぎ、英領印度六十七萬五千餘圓、露領亞細亞五十三萬七千餘圓、北米合衆國二十九萬五千餘圓、暹羅七萬九千餘圓、比律賓諸島七萬五千餘圓、英國五萬四千餘圓等の順位で外に保税工場百三十萬三千餘圓を算した、而して前年に比すれば滿洲國、中華民國を合せ二十三萬五千餘圓の増加を見たのは、粟、黍等代用食料品の不況に反し天日鹽、撫順炭等の好況に依るものであり、英領印度は繰綿の入増に基き五十八萬八千餘圓を激増し、露領亞細亞は礦油、暹羅は碎米の入荷に依り四萬餘圓乃至三萬餘圓、其他重油の優勢に依て保税工場二十四萬六千餘圓の各増加を告げたるに對し、米國は燈油の入減に依り九十八萬六千餘圓の著減を呈し、比律賓は葉煙草の減入で十一萬二千餘圓、英國は紡績機械、蘭領印度は生護謨の入荷薄から各五萬餘圓、其他佛領印

度は石炭、埃及も天日鹽の不況に依りて三萬餘圓乃至二萬餘圓を孰れも減退した。

輸入國別貿易額を二年比較表示すれば左の如くである。

輸入貿易額國別二年比較表 (圓)

國別	昭和八年	昭和七年	増減(△)	國別	昭和八年	昭和七年	増減(△)
滿洲(關東州ヲ含ム)	四三〇、六四七	一、三三三、一七	三三三、六八四	英吉利	五四、三八八	一一三、六四四	△ 五九、二五六
中華民國	七三〇、一五四	—	—	獨逸	九、三二〇	七、六三〇	△ 一、六九〇
英領印度	六七五、八四七	八六、九二〇	五八八、九二七	瑞典	一三、七〇〇	一〇、七〇〇	△ 三、〇〇〇
英領海峽殖民地	四四	九	四五	瑞西	—	一三、七六一	△ 一三、七六一
蘭領印度	六	五〇、二七三	△ 五〇、二六六	北米合衆國	二九五、三二二	一、二八一、九九四	△ 九六六、六八二
佛領印度支那	—	三五、五五四	△ 三五、五五四	加拿大	九八	六、九九七	△ 六、八九九
露領亞細亞	五五七、〇〇八	四八七、六五八	△ 六九、三四〇	其他ノ諸國	六、三三三	五八、〇三八	△ 五一、七四五
比律賓諸島	七五、〇〇一	一八八、〇三七	△ 一一三、〇三六	保税工場	一、〇三三、〇一九	一、〇三三、〇一〇	△ 〇
暹羅	七九、二九九	四六、七六九	△ 三二、五三〇	計	四、六〇一、九四四	四、七六九、一〇〇	△ 一五八、一五六

叙上の通り輸入國別貿易中最も緊密の關係にある滿洲國、中華民國貿易は專賣品たる天日鹽及撫順炭等の入増に依つて一段進展を示したる外、競争賣出に依る露油の進出から露領亞細亞貿易愈々密接を加へ、其他經路の變更と共に繰綿の直輸入に依りて、英領印度貿易亦急激なる進境を示し異彩を放つに至つたが、本年銀高傾向の持續に依り輸入重要品中、量價歩調を異にせしもの尠なからず、且一般外國産は爲替關係、國産品擡頭の爲、壓迫せられ各國概して振はず、特に石油の入減に依る對米貨

易の不振は全貿易を決定的に左右し結局既記の減退を見た。
左に主要輸入品を比較表示し次に其の重要なものに就き消長の状況を概説する。

輸入主要品二年比較表

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
米	百斤	一六、七四二	九、六八九	△	七五、四二六	四一、五〇三	△
粟	同	五、三五七	二四、二九〇	△	二六、四六九	一一、五〇〇	△
高粱	同	七二二	二、三二一	△	二、三三六	八、八六三	△
黍	同	九九二	一一、三五三	△	五、四五六	四八、一〇七	△
小豆	同	四九〇	三〇〇	△	二、一七九	一、五〇一	△
綠豆	同	三、五九四	一、三三九	△	一七、五六八	六、八八一	△
落花生	同	二、二二五	二、六五三	△	二、六七八	一六、一〇五	△
其他	同	一四九	三三五	△	一、四六三	三、〇五六	△
豆類計	同	六八五	一、一八	△	一、四七九	七九九	△
胡椒	同	七、〇四三	四、六五三	△	三三、三六七	二八、四〇〇	△
胡麻	同	六、九〇九	二、〇〇〇	△	七二、九五〇	一四、五七三	△
蕃椒	同	八、七〇六	一、三三三	△	一一、三六三	一一、三三三	△

品名	單位	數量		増減(△)	價額		増減(△)
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	
天日草	百斤	七六八、〇二七	九七六、六四二	△	七〇六、九一〇	六〇七、七〇〇	△
葉煙草	斤	二八五、三七五	一、〇五、九八八	△	一、〇五、二五〇	三、七七一	△
揮發油	ガロン	八、八八二、五八一	七、九三二、三三四	△	一、三三、〇六七	九六二、八六九	△
燈油	同	一一七、〇六六	二、三〇六、三三四	△	四、三六六	一、〇〇八、九四八	△
輕油	同	—	六九、九三〇	△	—	三、四一七	△
機械油	斤	二、七七八	一、五九、一四二	△	四、四八二	二、一七二	△
巴拉フィンワックス	同	—	一、五九、一四二	△	—	三、四一七	△
生薬類	同	—	六、七、四三三	△	五、〇〇〇	六、三三八	△
其他製藥類	同	—	三、四、九〇〇	△	—	六、三三八	△
製藥類	同	—	三、四、九〇〇	△	—	六、三三八	△
綿織物	斤	四九、一三二	二七、七八三	△	三二、一八九	一一、一三〇	△
毛織物	同	—	六、三三八	△	—	二、〇、五六九	△
平織物	同	—	四、七、〇〇〇	△	—	一、四、三三八	△
綿織物	同	—	一、七二	△	—	六八	△
綿織物	同	—	—	△	—	—	△
支那麻布	同	—	—	△	—	—	△
其他麻布	同	—	—	△	—	—	△
其他	同	—	—	△	—	—	△

種別	数量	昭和八年	昭和七年
毛織物	方碼	七五	二、一三六
羅紗及セルゲス		八、六三三	一〇、九五三
アルパカ、オス		九、二八八	一三、〇八九
トリス類		二〇、六八一	九、九三三
其他		九、二八八	三、八一〇
石炭	噸	二九、八七四	九、九三三
硝子板	方呎	三七、三〇〇	九三九、九〇〇
(無色硝子板)		九七七、二〇〇	三、一〇一
其他硝子及同製品		二〇、六八一	二、四五五
機械類	斤	一四、九七三	三三、四七五
紡績機械類		一四、九七三	三三、四七五
其他		一四、九七三	三三、四七五
木	立方尺	九六、四四八	四三、一九八
原木		一、〇〇〇、一六四	三六、七三六
板		五六、三三〇	三三、三一九
其他		一四、九五七	七六、〇九八
材料		四、五八三	二、二五五
飼料	百斤	六、八三八	一、〇一三
豆		一、八六五	一、九九一
其他		一、八六五	一、九九一
肥料		一、八六五	一、九九一
其他		一、八六五	一、九九一

◎輸入重要品

米及扱

種別	数量	昭和八年	昭和七年
計	百斤	一五、二〇八	七六、七五五
其他ノ諸品		九、九三三	二七、四〇一
小包郵便物		六、七七八	四九、五五五
通計		一五、二〇八	七六、七五五
再輸入品		一五、二〇八	七六、七五五
全計		一五、二〇八	七六、七五五

本品は全部暹羅碎米で製餡原料向に使用せられる、近來水餡の製造旺盛に伴れ入荷増加したが、代用食料向としての外國米は内鮮殘存米の過剩に依る米價の低迷から入荷を阻止し、且つ鮮産大農作見越に依る米の洪水が豫想されると共に、統制法の實施と相俟つて除外例を認めない外米輸入許可制の施行に依り取引皆無の不況を告げ相場亦無見當の状態であつた、尙直輸入の外、内地手數濟碎米や臺灣糯米、其他中國產酒造米等の特種米の入荷に依り内地移入米も可なり増加を見た。

輸入米數量價額國別二年對照表 單位(數量)百斤 (價額)圓

種別	昭和八年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額
米	一	一	一	一

精米	碎米	計	
		米	米
一九、七四三	一九、七四三	一九、七四三	一九、七四三
七五、四二六	七五、四二六	七五、四二六	七五、四二六
一六、七四三	一六、七四三	一六、七四三	一六、七四三
五〇八	五〇八	五〇八	五〇八
三、八〇七	三、八〇七	三、八〇七	三、八〇七
三、八〇七	三、八〇七	三、八〇七	三、八〇七
四、五〇三	四、五〇三	四、五〇三	四、五〇三

移入外國米仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數		價	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神戶	三、三三三	二、八一五	二、四九六	三、三六五
下關	五〇四	一、〇〇一	三、九五〇	六、九〇〇
門司	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
計	三、八三七	四、三三二	二、八二二	三、三三三
增減(△)	—	△	—	△

移入臺灣米仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數		價	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神戶	—	—	—	—
下關	—	—	—	—
門司	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
計	—	—	—	—
增減(△)	—	—	—	—

外國米及臺灣米平均相場月別一覽表

仕出地	數		價	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
下關	三、三七二	一、四七五	一、八二六	一、四七五
門司	七〇〇	一、二〇〇	五〇〇	一、二〇〇
臺灣	三九、五六〇	三四、九三三	二、四二七	五〇〇、〇三三
計	四三、七二二	三九、八〇八	一、五八三	一、一七六
增減(△)	—	—	—	—

粟

米價安に加ふるに圓安に依る輸入不採算に基因し春來一途入減を辿り、特に鮮米移出統制の一端として五月關稅引上が決定されて以來、南鮮特に釜山地方から漸次其の姿を消し市場寂寥を極めた、要するに本年は全然賣れなかつたと云つてもよい位に一般消費が減退し、爲に商人側は輸入しても採算上妙味がなかつた結果で、消費減退の主因は(一)、豫想に反した米價の低落(一)、内地裸麥の移入増加(一)、濟州島七年産の大豊作から南鮮海岸一帯の消費地盤侵蝕等挙げられて居る、輸入品は海城、四平街産大部分を占めたが、鐵路に依るもの十五萬餘斤、海路に依るもの三十八萬餘斤で鮮内入鐵道運賃割引廢止等の影響もあつて海路入荷依然大量を示した。

輸入粟數量價額國別二年比較表

國別	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	111	34,290	525	115,580
滿洲	5,245	△	25,954	△
計	5,356	34,290	26,469	115,580
				△
				89,111

粟平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
南滿產精粟(特)	百斤	六三〇	六〇〇	—	五七〇	六〇〇	六〇〇	—	—	—	六〇〇	—	—	六〇〇	六〇〇	五八六

黍

本品も鮮人代用食料の一として年々可なり消費を見せて居たが、關稅増徴、爲替關係からする高値出現に依て前年下半期以來甚だしく不況を辿り、本年に入るも米價安に押され取引全然中絶して八、九月に至るも尙一口の入荷を見ず、市場一粒の黍なしと云はれる程品拂底の珍現象を呈したが、近來水飴需要増進の結果、碎米同様製餡原料向として年末一、二回昌圖物の小口入荷を見たのが左の額である、相場は六圓臺を上廻り前年の高値より尙平均二割内外高値であつた。

輸入黍數量價額國別二年比較表

國別	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
滿洲	993	11,553	5,456	88,107
				△
				43,652

黍平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
南滿產黍(並)	百斤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	五三二

胡麻子

本品は大部分胡麻油原料として消費せられるものであるが、元來朝鮮産の生産不足は自然上海物、滿洲物等の取引を見る譯であり、且つ上海航路の利用増進に依り内地經由を直輸入に轉じ入荷好勢を辿りつゝあつたが、事變以來熾烈なる排日貨の打撃を蒙り、春來上海方面との取引尙不圓滑を招いたのミ、一面之を原料とする胡麻油は近來一般鮮人の生活改善に依て節約される外、豆油、白絞油等安値物の爲に押され、賣行の不良に依り上半期の入荷甚だ振はざるに、下半期滿洲物の取引好轉も及ばず、前年より輸入一層減退に了つた、相場は一途先安を見越され漸落状態である。

輸入胡麻子數量價額國別二年比較表

國別	數		量 (百斤)		價		額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減 (△)		昭和八年	昭和七年	増減 (△)	
關東州	六八三				七〇〇.七			
滿洲	一、二二〇	一一、一〇〇	△		一七、七七一	一五〇,五七二	△	
中華民國	四、三三六				四八、一九五			
計	六,〇三九	一一,一〇〇	△		一〇九,〇七三	一五〇,五七二	△	

胡麻子平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
漢口產白胡麻(並)	百斤	一三、〇〇〇	一三、一〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇

天日鹽 (碎カザルモノ)

本品は關東州鹽、山東鹽、青島鹽等を含む支那鹽大部分であるが、輸入鹽は爲替關係にて不利を呈し、且つ南鮮地方蔬菜の不作は漬物方面賣行上に影響し、地場再製鹽界の不振に伴ひ入荷減退したが、輸入鹽の供給を仰ぐ朝鮮では鹽價昂騰が必然の勢となり、市價値上りの爲價額に増加を示した、元來本品輸入は許可制に依り完全なる統制に置かれて居る關係上、其の需給に就ては正常であるが、自給自足を目標とする當局の増産計畫に相俟つて輸入鹽の不利は鹽田擴張を促進し、輸入逐年漸減を辿るものと見られて居る、相場は鹽管理實施以來激變を見ないけれども、本年は爲替關係に依る外、關東州、青島鹽昨年不作の打撃もあり、且つ船運賃の昂騰等に依り頗る強調を呈し、前年より平均約三割見當の値上りである、尙本年臺灣鹽の移入も激

減を免れなかつた。

輸入天日鹽(碎カザルモノ)數量價額國別二年比較表

國別	數		量 (百斤)		價		額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減 (△)		昭和八年	昭和七年	増減 (△)	
關東州	三三三,〇〇一	八五五,〇〇〇	△	六六六,九七七	二九三,一七六			
中華民國	四六七,二八二	一一一,六三七	△	一,一六三七	一三三,七〇四	五五五,〇〇一	一六二,八四九	
計	七八〇,二八三	九六六,六四二	△	一八八,三六四	五〇六,八八〇	五五五,〇〇一	一六二,八四九	

移入鹽仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數		量 (斤)		價		額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減 (△)		昭和八年	昭和七年	増減 (△)	
臺灣	五、〇七九	一〇、四三三	△	四、三五四	五五、七三九	八七、二八三	△	
其他	六三〇	四、五三〇	△	一、九〇一	一五、七	一〇一	△	
計	五,七〇九	一四,九六三	△	六,二五五	五五,八九六	八七,三九四	△	

鹽平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年		
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月				
天日粗鹽	撒百斤	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九	四、九
釜山產再製鹽	同	一、四〇	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五

葉煙草

本品は全部大邱專賣局向原料用品として神戸經由で輸入されたマニラ産であるが、爲替低落に依る値上り關係もあり、又内地で輸入手數濟の上、内國貨物として移入せられたもの割合多かつた等の事情もあつて輸入不振を示した。

輸入葉煙草數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
比 律 賓	一七、七、五〇〇	五、七、四、三六八	七、五、〇、〇〇〇	一、八、〇、〇〇〇
米 國	一、一、八、二、五	一、八、九、二、九	五、一、〇、四、九	一、〇、一、三、九
英 領 印 度	二、八、五、七、五	三、四、二、三、二	一、三、四、一、九	八、六、九、〇〇
計	二、八、五、七、五	一、〇、八、〇、〇	一、三、四、一、九	一、〇、一、三、九

移入葉煙草仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神 戶	一、七、五、三、三	一、七、五、三、三	—	—
横 濱	四、九、一、六、四	三、九、六、三、七	三、九、三、〇〇	〇、一、五、七、〇
門 司	〇、七、七、〇	〇、〇、〇、〇	三、三、六、八	〇、〇、〇、〇
計	七、六、二、〇	一、九、一、九、〇	四、〇、一、〇、〇	〇、一、五、七、〇

原油及重油

本品は直接燃料用として大部分免税の取扱を受けるものであるが、本年の入増は主として漁業發展の反影と認められる、其他海運工業方面にも使用漸増の傾向にあり、殊に近年ディゼル機關の發達と共に低級品の需要一段喚起せられ、タラカン錫票等の賣行依然優勢である、而して市場出廻品は殆ど南洋産、北米産に占められ其の外、内地物等幾分入荷を見るも、保税工場利用増進の結果概ね之に集中せられ、本品入荷の九割以上は同工場よりの入荷である、相場は昨年来インフレ景氣や米國石油統制の聲に鱈上りに上つたが、近來露油の登場に依る油界混亂の渦中に卷込まれ、頭打の状態となり一途下り坂を呈した、併し前年に比し尙約四割方の高値である。

輸入原油及重油數量價額國別二年比較表

國 別	數量 (瓦)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
米 國	八、八、三、三	一、七、七、七、七	一、五、九、三	四、三、九、四

英 吉 利 保 稅 工 場 計	數量 (瓦)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
	六、五九三	—	一、一〇八	—
	八、五九九、一六六	七、九〇三、四三二	一、三〇五、〇一〇	九、五七、四七五
	八、五六二、五六二	七、九三二、三三四	一、〇〇五、六二七	九、六一、八六九
				三、四一、七四八
				三、四一、七四八

移入原油及重油仕出地別數量價額二年比較表

仕 出 地	數量 (瓦)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
東 京	三、〇八三	—	三、〇〇〇	—
下 關	三六、六六〇	五、五七〇	五、三三一	九三〇
其 他	七〇、〇一八	一〇、六三一	一、二、六二四	一、二、六二四
計	一〇六、〇〇一	一六、二四一	一、二、八二四	一、二、八二四
				二、一八、四七七

重油平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
ダイヤル油	一 罐	—	—	—	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五
青鉛(ミリー)	同	—	—	—	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五
ダイヤル油	同	—	—	—	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五
黒鉛(タラカン)	同	—	—	—	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、一七五

揮 發 油

米油の輸入露油の進出に依り入荷増大を加へたが、露油の割込は本品市價を低落せしめたに止まらず、燈油、輕油、重油等の油價をも卷込み一齊打撃を與へたる爲、所謂六社側の對抗に依て猛烈な廉賣戰を展開するに至り、鮮内油界にとつて受難な年であつた、需要は鮮内自動車の普及、航空路の開設、護謨工業の發達等から好勢を辿る折柄、數回の値下に依り思はぬ負擔輕減の實を擧げたのは消費者側で、特に此間豫想しない利益を見たのは自動車業者である、市價の下落に依る賣行の良好なると共に之等外油の外、近來國産品は爲替關係に依る外油高と、品位の向上に依て日石物等内地産の販路亦擴大され、輸入移入共に増進を告げたが、相場は協定外に立てる露油との競争の外、各特約店の巧妙なる戰術に依り、六社側の同志打から漸落状態を示した。

輸入揮發油數量價額國別二年比較表

國 別	數量 (瓦)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
米 國	六、四四、〇九五	三、三三、〇〇〇	三、三三、六二四	—
露 領 亞 細 亞	七〇、〇一八	一、六、五二六	九、二、六六六	—
計	七六、四六六	四、九八八	一、二、九六〇	—
				一、一〇、一六八

移入揮發油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (瓦)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
横濱	五七三、九四〇	一七〇、七五〇	四〇三、一六〇	八一、六六五
東京	一一〇、五五〇	七〇、〇五五	四〇、〇四五	三四、八五三
下關	四九、五七〇	九五、一一三	四五、五四二	四七、三〇九
長崎	一五〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	七五、〇〇〇	一七、四〇〇
其他	八九三、〇三八	五八八、七五八	三〇五、二八〇	三二六、五九二
計	一、七七六、〇三八	一、一〇一、一三五	六三三、九七三	五九七、七一八
				増減 (△)
				三〇九、九六三

揮發油平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
ライ社黒貝	一兩	六、一〇	六、一〇	六、一〇	五、四〇	五、四〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	五、二八	五、二八
ス社ベガサス	同	六、一〇	六、一〇	六、一〇	五、四〇	五、四〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	五、二八	五、二八
日石社編蝸	同	六、一〇	六、一〇	六、一〇	五、四〇	五、四〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	四、九〇	五、二八	五、二八

燈油

本品は前年關稅改正前の見越輸入巨額に上り、其後持越在荷關係上入荷手控へられ、爲に本年減少を呈したが、新規品たる

露油の市場進出目覺ましく之が輸入相當量に上つた、市況の實勢を見るに、燈火用としては電燈の普及に依て販路に大休の限度あり、又發動機用のものは海上に於て重油の勢力に壓倒せられ、陸上に於ても輕油より受ける打撃尠くない状態である、而も油界の惑星と云はれる露油と、六社側の對抗上、揮發油と共に競走に競争を重ねた結果、爲替低落、インフレ景氣で昨年末來昂騰を重ね、何處迄上るか判らなかつた相場も、下半期に入つて轉落を始め年末に近づき急轉直下を演じた。
移入品は内地手數濟ライジングサン物や、三菱の米國物、其他日石、小倉等の製品であるが、前年の如く外油が直接大量荷引急ぎ等特種事情も起らなかつたし、又内地産の販賣努力等の爲、可なり入増を見た。

輸入燈油數量價額國別二年比較表

國別	數量 (瓦)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
米國	七四、八〇五	二、一六四、三五五	二九、九三三	九三、二六六
露領亞細亞	四、三三一	一、四三、二二九	一、三三三	四六、二八三
計	一、七七六、〇三八	一、一〇一、一三五	三〇五、二八〇	一三九、五四九
				増減 (△)
				九三六、七三九

移入燈油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (瓦)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
神戶	〇、〇〇〇	一、一、九三三	一、一、九三三	〇、〇〇〇
				増減 (△)
				一、一、九三三

計	其		長		博		下		東		横	
	他		崎		多		關		京		濱	
八、一〇、三九七	二、四一、五三四	一〇〇、〇一五	一、四四、〇〇〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇	一、三九、一八〇
三、七、九一九	一、五、五三四	—	—	九、〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
四、三、四〇六	一、〇、一七四	一〇〇、〇一五	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇	一、三三、九七〇
四、三、二三四	一、三、〇七二	六、〇、〇〇〇	六、〇、八〇〇	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五	七、一、七七五
一、七、三三三	七、五、四三七	—	—	四〇、二九九	—	—	—	—	—	—	—	—
三、三、三三七	四、九、六四〇	六、〇、〇〇〇	六、〇、七八五	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六	三、一、四七六
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年

燈油平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
ス社上松	十瓦	六、六〇〇	六、六七〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	六、六三〇	六、三〇〇
同社勝利	同	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇
ライ社貝	同	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
テキサス社	同	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
日石社	同	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇
白蠟	同	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年	前年

輕油

本品は内地産の勢力増進、且つ安値物歡迎等の爲、外國産壓迫を蒙り殊に本年爲替關係の不利や、スタンダードの保税倉庫

の廢止を見るに至り、遂に入荷皆無の不振を呈した、尤も需要は水陸石油發動機燃料として廣い範圍に用ひられ、最近ディゼル機關の發達から漁船の燃料は輕油より重油に移りつゝある傾向も見えるが、一面小型發動機船の増加に依り賣行上衰退を見せず、又農業用發動機等の使用益々増加しつゝあるのみならず、一般機械の洗滌用としても需要尠なからざる状態にて内地移入は増進を示した、右移入の内には内地手數濟外油をも含むが外油の主なるものはライ社の貝、ス社のソコニー、内地物では日石の青全勝、別發、二發、三發、小倉石油の白菊、赤菊、黒菊、別黒、旭石油の金二分、赤菱一號等で、相場は各品の競争から下押し下半期以來一段不況を辿り、前年より平均一、二割方下廻つた。

輸入輕油數量價額國別二年比較表

國別	數量		價額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
米	—	六九、九三〇	—	三、四、一七九
國	—	六九、九三〇	—	三、四、一七九
増減(△)	—	△	—	△

移入輕油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量		價額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
横濱	三三、〇〇〇	一、八、〇〇〇	一、一、五、五五〇	四、四、八、八〇〇
東京	二、七〇、三三五	二、一〇、三三〇	三、七、〇〇〇	六、九、六、五七〇
増減(△)	—	△	—	△

計	下門		長崎		其計	
	關	司	崎	他	計	計
一月	四三三、一八五	五、九五〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
二月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
三月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
四月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
五月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
六月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
七月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
八月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
九月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
十月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
十一月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
十二月	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
平均	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇
前年	四三三、九二五	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	五、〇〇〇	一、四三〇、〇六〇	一、四三〇、〇六〇

輕油平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
ライ社	五瓦	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
ス社	同	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
日石	同	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
二發油	同	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
平均		二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
前年		二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇

機械油

本品は輕油と共に内地物の需要外國物を凌駕し、且つ一時的に大量取引を見ない爲、外國物でも内地稅濟品を小口に移入せられる状態にあるが、本年爲替關係に依る採算高の關係もあつて一層減縮した、需要は自動車の増加、機械力の使用漸増等に連れて逐年増大の趨勢を辿り、最近内燃機關の發展は著しく潤滑油の需要を喚起しつつあるが、持越在荷の關係上、本年内地移入亦幾分不振を示した、相場は販賣競争に依て油界の不況に追隨し、内外産とも冴えず漸落状態である。

輸入機械油數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東	三、九六九	一、五九一、四三三	六九八	一、七、一七二
米	一七、八八七	一、五九一、四三三	三、七八三	一、七、一七二
計	二一、七六六	一、五九一、四三三	四、四八一	一、七、一七二
増減 (△)				
昭和八年				
昭和七年				
増減 (△)				
昭和八年				
昭和七年				
増減 (△)				

移入機械油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	三、七五七	二、〇五、七七八	四、五、三二	二、四、九七九
神戸	三、七五七	三、三二、六九九	五、八、七三五	四、六、九二七
横濱	五、九〇、七〇九	一、七、一、〇九四	七、一、八七九	二、五、〇〇九
東京	五、九〇、七〇九	二、七三、八八七	五、三、六九四	二、四、〇一七
下關	八、九八、二一一	一、五九、九六〇	八、一、四四〇	一、七、一、一七
門司	一、〇〇、〇四九	三、三二、四七九	三、五、四八九	四、三、八二四
博多	三、七五七	一、九四、〇九〇	六、七、三二	二、四、〇三三
計	二一、七六六	一、五九一、四三三	四、四八一	一、七、一七二
増減 (△)				
昭和八年				
昭和七年				
増減 (△)				
昭和八年				
昭和七年				
増減 (△)				

其計	四、四七九、六三三	四、六四四、五九三	△	一、六六四、九八一	三、九一三、三三三	三五四、四〇八	三六、八二六
他	七、七〇七、三三六	七、七〇七、三三六	△	三〇〇、〇〇〇	七、四〇七、三三六	六、〇〇〇、〇〇〇	一、四〇七、三三六

機械油平均相場月別一覽表

商標 又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
米國産Aモビル油	一函	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇
英國産Bモビル油	同	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇
日石社Cマシソン油	一罐	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇

パラフキンワックス

本品は蠟燭原料として消費するもの大部分を占め、其外護工場或は菓子屋向等幾分需要あるも比較にならぬ、從來當地に於ける蠟燭製造工場はスタンダード、ライジングサンの二工場ありしも、一昨々年其の一ライジングサン工場の閉鎖以來逐年不振を辿り、本年も爲替低落關係から内地物の擡頭に依り製品賣行は之に壓迫され、外國産を原料とする製造工場は一向振はざることとなり入荷減退した、併し本年秋以來當地に内地産を原料とする製造工場の開始を見るに至り、合同油脂、日本製蠟製品等内地物の移入漸増の形勢にある。

輸入パラフキンワックス數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
英國	三三、三四〇	—	三、六二〇	—
印度	七、三六三	六七、四六二	一、三〇〇	六、三六八
米國	三三、三四〇	六七、四六二	三、六二〇	六、三六八
計	七〇、〇二三	一三六、九〇二	七、五四〇	一三、三五六

生インヂアラツバー

本品は船繰關係や或は取引の都合上、門司、神戸地方で輸入手數濟の上、運送せられるもの多く爲に直接輸入は減少せしも、之が原料に使用せられる鮮内護謨靴工場的發展、殊に今春三井物産の協定統制後採算を良好に導き、且つ關稅引下の好影響を蒙り綿ゴム靴、農民靴等對滿輸出の旺盛と相俟つて移入高著しく増進を示した、元來盛衰の勢急激なるは斯界の特色で長き不況と、限産協定の不成立から昭和三年以來潔布的慘狀を呈せし本品も、近來自律的作用効を奏し世界的需給良化を強め、轉換期に立ち本年累月騰勢を續け、昭和五年以來の高値を示すに至り、當地相場も春先一磅十二錢五厘見當を唱へしも、秋口には二十八錢五厘と云ふ高値を出した。

輸入生インヂアラツバー類數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
蘭領印度	—	三、五二〇、〇〇〇	—	三、五二〇、〇〇〇
計	—	三、五二〇、〇〇〇	—	三、五二〇、〇〇〇

英領海峽殖民地

計

1,666

3,549,000

1,666

10,111

4,856

移入生護謨仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大	45,922	97,305	51,384	130,200
神	2,048,446	1,633,933	415,563	355,768
下	334,918	8,200	326,518	2,000
其	144,494	22,245	133,349	8,494
計	2,563,880	1,761,883	803,946	544,662
増減 (△)				
大		△		
神				
下				
其				
計				

線綿

本品は當地朝紡會社の紡績原料品として輸入された印度棉花であるが、本年同社製品が滿洲國進出計畫の爲、大規模の買付を行ったのと、又船線、其他積合せ關係上、内地經由を大連經由に轉換され九月以來輸入急激に増加の結果、從來其だ振はなかつた本品輸入も一躍左の額を擧げた、聞く處に依ると、入荷品は我國の印棉不買同盟以前の契約に掛るものゝ如くであるが同盟以外に立つて拘束を受けない鮮内工場向としては其間の真相捕捉し得ない、而して内地移入品も矢張り印度棉花の外、米國棉花等を含む朝紡原料品大部分を占むるが、右の事情で移入數量の減少に拘らず、インフレ景氣や印棉不買を織込んだ棉花

相場の高騰から價額に尠なからざる増大を示した。

輸入線綿數量價額國別二年比較表

國別	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
英領印度	14,392	—	622,178	—
計	14,392	—	622,178	—
増減 (△)				
英領印度				
計				

移入線綿仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大	43,359	36,847	2,356,663	948,956
神	84,980	108,887	3,992,514	3,738,348
下	683	144	30,280	300,000
其	426	488	19,191	19,191
計	129,479	146,366	6,688,058	5,086,705
増減 (△)				
大				
神				
下				
其				
計				

支那麻布

本品は支那商人の手に依り上海方面より輸入されるのであるが、滿洲事變以來支那商人業勢失墜の爲、入荷硬塞状態を呈し、而も本年關稅高の影響、擬麻布の打撃等取引上頗る不利の材料多きに拘らず、前年に比し著しく入荷増加を告げたのは、日支關稅協定期間の満了に伴ひ五月以前見越輸入の増加と、停戰協定以來の環境好轉等に促進されたものであるが、又當業者が屈せず弛まず、眞に血戰的なる販賣努力の結果とも見られる、賣行は四川夏布最も優勢で京莊、五百尺等之に次ぐ、相場は銀高、關稅高から突飛高を呈し前年より約四割方の高値である。

輸入支那麻布數量價額國別二年比較表

種別	國別	數		量 (方碼)		價		額	
		昭和八年	昭和七年	増減 (△)	昭和八年	昭和七年	増減 (△)		
生平織布	中華民國	六〇、三三八	五、九二九	五四、四〇九	三三、一七三	一、五五六	二、〇二〇		
其他ノ平織布	同	四九、九九九	三、一五五	四六、八四四	一八、七九七	七、四四四	一、二、八三三		
計	同	一〇九、三三七	九、〇八四	一〇〇、二五三	五二、九七〇	九、〇〇〇	三、三〇三		

支那麻布平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
京莊夏布 衆昌	一圓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八五、〇〇	六五、〇〇
四川夏布 元生利	百反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六九、六七	五一、七五
五百尺夏布 瑞昌福	十五反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六九、六七	五一、七五
	十反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八五、〇〇	六五、〇〇

石炭

輸入炭は無煙炭大部分を占むるが、三井物産の手で青島より若干無煙炭の入荷を見たのが稍變つたものである、地場需要は紡績、陶器、護謄靴、珪瑯鐵器等輸出工業の進展と、其他一般産業界の好況等に依て好轉し、工場向粉炭の入増特に著しく、其外位置の關係上、外國船舶の當港に寄港の上、船舶用として積取漸増と相俟つて内地炭の移入亦増進を告げ、市況は昨年夏場から秋口にかけて販賣競争や鮮産品鐵道運賃割引等の爲、殆ど八方塞りの慘狀を見たにも拘らず、本年に入つて市場一變活氣横溢の狀態を呈現するに至つた、兎に角内地炭界は生産統制に次ぐに、インフレ浸潤化、軍需工業の活況に基く消費の激増から石炭飢饉の聲高く、驚くべき市況の強調に當地市場も炭價騰貴は自然の勢となり、下半年以來一本調子に急激なる昂騰を告げ、前年より平均約二割方の高値を示した、尙本年移入炭の主要産地別數量を掲ぐれば左くである。

早良	一一、五四八	田川	七、五〇〇
龜山	一一、〇〇〇	大峰	四、一八〇
大谷	一、七〇〇	大辻	一、二〇〇
高田	二、〇〇〇	奈良	一、〇〇〇
赤池	五、五〇〇	中鶴	二、〇〇〇
粕屋	一、八〇〇	高松	二、五〇〇
飯塚	八、〇〇〇	松嶋	一五、〇四七
方城	一六、〇〇〇	崎戸	八、三四七
新入	一〇、〇〇〇	江口	一、三六一
鯉田	九、〇〇〇	池野	六、八四五
豐國	一、五〇〇	福嶋	一、四五五

第二外國貿易

大ノ浦 一、八〇〇
 上山田 一、五〇〇
 高島 一、二三九

松浦 一、四五六
 杵島 一、一三〇

1111

輸入石炭數量價額國別二年比較表

國別	數量 (噸)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
滿洲	三九,三七三	一九,四八一	二六,三三〇	一八,一〇二
中華	五〇一	—	一〇,〇三〇	—
佛領印度	—	一,一〇〇	—	一六,五〇〇
計	三九,八七四	二〇,六六一	三六,三六〇	三四,六〇二
				△

移入石炭仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (噸)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
下關	三二,三七七	三五,九三二	二六,七七二	三〇,七七一
博多	—	—	—	—
計	三二,三七七	三五,九三二	二六,七七二	三〇,七七一
				△

石炭平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
長崎	〇〇	一一八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二二八
其他	一一八,一〇〇	一〇九,九九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇九,五五二
計	一一八,一〇〇	一一八,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一一〇,一〇二
														△

硝子板 (無色平面ノモノ)

本品輸入の全部は旭硝子と提携關係にある大連昌光會社製品であるが、同社製品は品質向上に伴ひ一時販路擴大の狀勢なりしも、昨秋以來内地の協定値段に縛られ内地産と同格を唱へてからは、矢張り古い歴史を持つ旭硝子等に壓迫され、本年下半期に入り入荷皆無の不況を呈すると共に、爲替關係に依り有利に轉向せる内地産の入増を見た、併し一般需要は自然増加を遂げるものであり、殊にインフレーション景氣の影響もあつて需要増加の程度も自然強かるべき筈だが、高値出現の爲、買控へられ輸入高に於ては減退を免れなかつた、相場は爲替安に伴ふ海外輸出の躍進、且つ軍需工業の活況に依り好影響を齎らせる内地産に追隨し、春先より熱狂相場を持續し前年に比して一割内外の高値を示した。

輸入硝子板 (無色平面) 數量價額國別二年比較表

國別	數量		價額	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	七、三〇〇	九七、三〇〇	二、四五五	五三、七六三
			△	△
			九五、九〇〇	五三、七六三

移入窓硝子(無色平面) 仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量 (方呎)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
下關	三三、三〇〇	四六、五〇〇	一八、一三〇	四、一七三
門司	一、三三八、七〇〇	一、三三三、三〇〇	一三、九六〇	一、二二二
其他	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
計	一、三三八、七〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一三、九六〇	一、二二二
			△	△
			一三、九六〇	一、二二二

窓硝子平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月別												平均	前平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
關東州產 昌光C	一函改	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇
内地產 旭黑菱C	一函改	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇

機械類

輸入品中主なるものは當地紡織會社の英國產紡織機、及鑛山用瑞典產デイゼルエンジン、同米國產鑿岩機等であつたが、一般機械類に就ては爲替安に依る採算高や、内地產の據頭等に依て特種品を除き、各種事業界好轉機運なるに拘らず、輸入防遏に會し入荷減少を示した、其反面移入に於ては外國產の高値と、近頃勃興せる自力更生の徹底に依り需要は國產品愛用に傾き、内地產勢力増進の結果、好勢を辿り樂觀すべき事情にある。

輸入機械類數量價額國別二年比較表 單位(數量圓) 價額圓

種別	昭和八年		昭和七年	
	數量	價額	數量	價額
紡績機械類	三、三三九	三三、四七三	一、一四三	一、〇七三
其他	一、一〇一	一三、六九九	七、六二六	一、〇七三
計	四、四四〇	四七、一七二	八、七六九	二、一四六

移入機械類仕出地別價額二年對照表 (圓)

種別	仕出地別								昭和七年
	大阪	神戸	名古屋	東京	長崎	其他	計	計	
汽罐同部分品及附屬品	九、七三七	一、一五五	一、三三三	一、〇〇一	〇、五七五	一、五八一	一、〇八、四六五	一、〇八、四六五	

計	鐵道機關車及 機關車用炭水車		發電機電動機類		其他ノ原動力機		縫衣機		唧筒		金屬工及木工機械		精米機		稻扱機		其他	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
計	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341	1,473,439	33,341

木材

本年の輸入材は浦鹽、樺太、ピリオ、マゴ方面より積出された紅松、白松、落葉松等の原木であるが、前年四月保税工場の廢止以來製材入荷は皆無である、一般外國材は爲替關係の不利に依て輸入不振を呈すると共に、インフレ景氣に依る需要増、樺太材の拂下制限等環境の好轉で材價春來昂騰を續け、一方建設途上にある滿洲國に於ける需要急増、且つ吉會線の開通に依る沿線各地の發展は鴨綠江材、豆滿江材等を吸収し、且つ營林署の軍用材引受等から鮮内木材市場を脅かして極端なる資材拂底を現出し、當地建築界も品掠れに依る材料難と、相場高に悲鳴を擧げた程で、此間内地材は外材高の刺戟を受けて可なり入増を呈した、相場は原木不足が因を成して一路強調を辿り、前年に比し平均約三割見當の高値である。

輸入木材數量價額國別二年對照表

單位(數量) 立方尺
(價額) 圓

年別	國別	原木		挽材		板		其他ノ木材		計	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
昭和八年	露領亞細亞	906,448	43,938	43,938	906,448	43,938	43,938	906,448	43,938	906,448	43,938
		906,448	43,938	43,938	906,448	43,938	43,938	906,448	43,938	906,448	43,938
昭和七年	計	1,001,461	37,756	37,756	1,001,461	37,756	37,756	1,001,461	37,756	1,001,461	37,756

移入木材仕出地別數量價額二年對照表

單位(數量) 立方尺
(價額) 圓

年別	仕出地別	原木		挽材		板		鐵道枕木		其他		計
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
昭和八年	大阪	33,373	24,626	73,339	79,334	181,426	328,940	450	400	69,476	5,111	595,756
		33,373	24,626	73,339	79,334	181,426	328,940	450	400	69,476	5,111	595,756
昭和八年	博多	3,993	1,752	13,946	9,901	30,767	26,337	—	—	—	—	50,646
		3,993	1,752	13,946	9,901	30,767	26,337	—	—	—	—	50,646
昭和八年	其他	1,128,533	54,577	18,293	104,302	146,748	277,883	24,310	22,102	73,333	11,443	1,300,819
		1,128,533	54,577	18,293	104,302	146,748	277,883	24,310	22,102	73,333	11,443	1,300,819
昭和七年	計	1,144,899	57,655	105,578	193,537	358,941	633,070	494	400	101,856	15,554	1,400,819

移入木材產地別二年對照表 單位 立方尺

種別	年別	内地材	北海道材	樺太材	米國材	露領亞細亞材	其他ノ外國材
原木	同	六二七、七九二	七、四〇六	四九〇、七四八	一一、八六〇	四、九八〇	一、八一三
挽材	同	三三〇、一一二		五八二、一三三	二七、一一八	一〇、三九六	一七
板	同	一六〇、九三五		六七、一三四	二八、一七八	三、八五一	六、四一九
鐵道枕木	同	二九、七三九		八六〇	三、五三六		一、八九〇
其他	同	一五二、一一五		一一五、八六三	三〇、一三三	一六、〇〇五	四三、九六七
其他	同	八七、二七五		五三、三五四	三九、三三六	一一、七四五	一九、八三三
其他	同	二四、七六〇					
其他	同	六、七七一					
其他	同	一四〇、三三三		一二、四九三	一、三三一		
其他	同	八九、三六三		八、五九六	三、三七三		

木材平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
米 松 (原木)	百才	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一〇、五〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	九、九五
沿海州紅松 (原木)	同	九、〇〇	九、〇〇	一〇、〇〇	九、〇〇	九、五〇	九、〇〇	九、五〇	一一、〇〇	一一、〇〇	一一、〇〇	一一、〇〇	一一、〇〇	一一、〇〇	一一、〇〇	八、〇〇

村江線鴨	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
杉松挽角(並)(四寸角)	百才	七、五〇	八、〇〇	八、〇〇	八、〇〇	八、五〇	九、〇〇	一〇、〇〇								八、三八
紅松挽角(並)(四寸角)	同	一一、五〇	一四、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇								一三、六九
杉松六分板(一間モノ)	一坪	一、四〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、九〇	一、九〇								一、三四
紅松六分板(一間モノ)	同	〇、〇〇	〇、七〇	〇、七〇	〇、七〇	〇、七〇	〇、七〇	〇、七〇								一、六九

豆 糟

本品は近年硫安、其他化學肥料の普及蠶食に依て兎角減勢を脱せざりしも、本年産地滿洲大豆の豊收に依る出廻増加と、爲替安に依て多年我肥料界を支配せし外安の退陣を餘儀なくせしめた内鮮硫安界の高値止りから、需要を喚起し入荷を促進するに至つた、旁々一面肥料として使用せられる外、飼料、其他醬油醸造方面にも亦幾分需要せられ吠入撒糟の入荷好勢を告げ一層増進を加へた、相場は昨年末から今年初頭にかけて非常時農村を背景とした皮肉な肥料景氣に高値を見せたが、米價安に伴ふ消化不良見越から下半年に入つて下落を重ね、遂に玉糟取引は七月以來杜絶の状態に陥つた。

輸入豆糟數量價額國別二年比較表

國別	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
關東州	一五、七五五	九、一〇〇	一、六二五	一、〇〇〇
滿洲洲	一一、七一一	九、一〇〇	〇、七五五	一、〇〇〇
計	二七、四六六	一八、二〇〇	二、三八〇	二、〇〇〇

豆糟平均相場月別一覽表

商標又へ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
南滿產玉糟(並)	一枚	二、〇〇	一、九五	一、〇二〇	一、八五	一、八三	一、九二	一、八〇	—	—	—	—	—	一、九〇	一、五〇
同 撒糟(並)	十貫匁	—	—	—	—	—	—	—	—	二、七〇	二、六〇	二、五〇	二、四五	二、五六	—

第三、内地貿易 (貨物)

(一) 概説

本年の對内地貿易は既記の通移出八千五百七十五萬餘圓、移入一億二千五百三十七萬餘圓、合計二億一千一百十二萬餘圓で前年に比し移出入共増進を示したが、之を對港別に觀れば、大阪は移出入額六千五百餘萬圓を算して一頭地を抜き、其他は神戸の二千一百餘萬圓、下關の一千六百餘萬圓、東京の一千四百餘萬圓、名古屋、博多の各六百餘萬圓、横濱の五百餘萬圓等の順序で左表の通り前年に比し博多、敦賀等一、二不況を告げし外、大阪を首め神戸、下關、名古屋、東京、横濱等各地一般好況を呈した。

仕向地 別移出入貿易額三年對照表 (圓)

仕向地	昭和八年	昭和七年	昭和六年
大 阪	六五、四二一、六〇〇	五三、八七九、五九九	四三、六七三、八六六
神 戸	二一、四三九、〇〇〇	一九、七〇一、五三九	一八、八九八、一五六
名 古 屋	六、四七九、八五〇	四、七一一、〇三八	五、一七六、二三三
四 日 市	二、三三三、八八六	二、七二〇、七二五	二、三八七、二二二
横 濱	五、九四二、二二四	四、三三五、六四九	五、七〇〇、三七七
教 賀	一四、五九七、六六八	九、六三五、四八八	九、七八一、九七八
下 關	一六、九七八、三三五	一三、三三三、三〇五	一三、〇五七、七六六
博 多	二、七一九、六七三	二、一〇七、九三六	二、六三六、〇〇一
長 崎	六、三〇六、五七五	六、四六七、九〇八	四、三七三、九七五
臺 灣	一、四四一、三九一	一、二二〇、〇二〇	一、五九八、一八八
其 他	五九、三〇七、七七七	五三、三〇三、〇三〇	五〇、八六三、四六七
小 包 郵 便	一七、七〇、九	九、三三三、五五九	一三、二四三、六三三
合 計	三三三、三三三、三三三	二七〇、〇〇〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇、〇〇〇

(二) 移出貨物

當港本年の移出貿易總額は八千五百七十五萬餘圓で、前年に比すれば四百十六萬餘圓五分強の増進である、年初以來逐日爲替の下落と、インフレーション景氣の浸潤等環境の好轉せると、一般物價の昂騰と、鮮内産業の發達に依る貿易品の増産顯著なるに伴ひ移出貿易は昭和五年以來の好況を告げた。

而して移出貿易額に於て増減の顯著なるものを擧ぐれば、精米、林檎、繰綿、繭、生絲、柞蠶生絲、黒鉛、牛等は孰れも生産増加と、需要増進に伴ひ目覺ましき躍進を示したが、玄米は天候不良に依り出來秋に於て收穫期の遅延したる爲、調製不利から生産減縮に搦て加へて、政府の鮮米買上實施に伴ひ移出減退を免れなかつた、大豆は生産増收に拘はらず滿洲大豆の増産壓迫に著しく減退を告げた。

而して移出貿易額五百萬圓以上の移出重要品を掲記すれば、精米の二千百餘萬圓を首位に、生絲の一千二百餘萬圓之に亞ぎ、柞蠶生絲の九百餘萬圓、玄米の七百餘萬圓の四點である。

移出主要品二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
精米	石	376,430	622,033	7,598,331	13,549,000
玄米	石	1,499,230	922,874	21,987,343	10,224,854
計			△	△	△
柞蠶生絲	担	1,656,299	1,656,299	10,494,075	10,388,697
大豆	担	3,298	609	50,745	38,537
小豆	担	191,371	168,339	1,472,564	2,098,978
大豆	担	3,908	3,908	50,745	38,537
計			△	△	△
其他	石	48,859	13,199	754,464	1,117,177
計			△	△	△
其他	石	33	77	333	724

品名	單位	數量		價額	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
米	石	33	77	333	724
碎米	石	48,859	13,199	754,464	1,117,177
計			△	△	△
其他	石	33	77	333	724
麥	担	3,298	609	50,745	38,537
小豆	担	191,371	168,339	1,472,564	2,098,978
大豆	担	3,908	3,908	50,745	38,537
計			△	△	△
其他	石	48,859	13,199	754,464	1,117,177
計			△	△	△
其他	石	33	77	333	724
魚	斤	3,753,556	2,893,205	605,639	507,183
鮮魚	斤	3,753,556	2,893,205	605,639	507,183
乾魚	斤	4,585,273	5,275,826	1,521,426	1,734,264
煮乾	斤	1,373,009	1,638,797	199,233	175,477
魚	斤	1,373,009	1,638,797	199,233	175,477
魚	斤	3,383,377	1,090,980	34,926	13,711
魚	斤	3,383,377	1,090,980	34,926	13,711
魚	斤	2,661,475	3,773,409	708,063	681,507
魚	斤	2,661,475	3,773,409	708,063	681,507
魚	斤	2,692,974	10,826,910	2,453,647	110,590
魚	斤	2,692,974	10,826,910	2,453,647	110,590
魚	斤	3,125,596	2,391,441	833,926	753,200
魚	斤	3,125,596	2,391,441	833,926	753,200
魚	斤	4,491,145	4,151,502	49,636	49,517
魚	斤	4,491,145	4,151,502	49,636	49,517
魚	斤	4,491,145	4,151,502	49,636	49,517

第三 内地貿易 (貨物)

米	硫	獸	魚	乾	其	海	石	木	材	木	船	牛	鉛
同	同	同	同	同	同	同	斤	同	同	同	同	頭	斤
四七,〇五五	一一二	六,九〇八	二二,七九八	一,九三七	一八,七三,七八	六八,九七三	一〇六,三〇〇	二五,八六六	八二,一九九	二四,八九九	一四,五六九	九,八八八	三九,四九二
四〇五,八四九	五三〇	七,六二一	一六,六八八	五,九九九	一七,〇,八〇	三九,八三五	一六五,二七〇	二四七,九九〇	九六,一九四	四三,八九一	七,一三九	二四,一八八	三〇,六三四
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
七,三〇,九三	四,一八	七,三	六,〇〇	四,〇三	九三,九三	二九,一八二	五九,〇七〇	七,八七六	一四七,二七五	一九,七〇三	二,一〇九	一四,三〇〇	八,八四七
四四,六,九一五	〇〇六	三,六五五	一〇,六三六	八,六四五	四三,七八六	七九,九二九	一七,〇五一	一一六,六一〇	二二〇,三九六	八一,八五八	四二,一六一	五,八六九	二,二七,四四
三三,七三	四九,九	二,一〇	六,〇,三七	二七,六三	三三,一四	四二,六五四	二,七〇五	六四,一一一	二〇,五八六	四四,一一七	一三,一四三	一五,九九九	七三,九九九
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
二九,三二	一三,三四	一,五五〇	四,三五五	一八,九八八	一〇〇,六三三	三七,二七五	六,七三三	五三,二八九	一七,八一〇	六,六六九	一八,三三三	二,三,三三	一〇,二二
二九,三二	一三,三四	一,五五〇	四,三五五	一八,九八八	一〇〇,六三三	三七,二七五	六,七三三	五三,二八九	一七,八一〇	六,六六九	一八,三三三	二,三,三三	一〇,二二
二九,三二	一三,三四	一,五五〇	四,三五五	一八,九八八	一〇〇,六三三	三七,二七五	六,七三三	五三,二八九	一七,八一〇	六,六六九	一八,三三三	二,三,三三	一〇,二二

銅	鐵	鍍	陶	其他	石	鉛	黑	衣	麻	物	織	綿	其	他	炸	蠶	生	
同	斤	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九,七二八	二,八七八,二八	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	
四九,〇二八	二,〇九八,二二	二,四四六	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	一,五三四	
五〇,七二六	七八〇,〇五三	二,四四六	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	
三三,五〇六	七三,三七〇	二,四四六	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	
一九,二七七	三六,三一九	二,四四六	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	
一九,二七七	三六,三一九	二,四四六	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	

第三 内地貿易 (貨物)

仕向地	玄米	精米	其他	合計
門司	560	3,109	410	3,529
博多		47,709	1,588	49,657
桐野		1,875		1,875
菅田		1,678		1,678
菅車		2,324		2,324
鳥栖		19,551		19,551
長崎		9,870		9,870
佐保		617		617
福江		9,804		9,804
殿原		3,561		3,561
佐奈		8,693		8,693
比田	1	1,733		1,734
峰須		2,864		2,864
佐賀 (對馬)		101		101
勝本	31,301	1,019	2	32,322
和島	1,400	104		1,504
坂出	13,211	214,295	3,388	230,894
下關				

仕向地	玄米	精米	其他	合計
麻里	2,669			2,669
廣島	1,196	8,438	131	9,765
横川		1,166		1,166
宇品	3,055	43,395	101	46,551
吉浦	150	46,015	111	46,276
尾道	5,100	5,381		10,481
宇野				
神戶	4,324	101,829		106,153
大阪	110,324	101,829	8,768	220,921
宮津	88	2,158	290	2,436
舞鶴	334	12,839	310	13,483
福山		1,194		1,194
四日市				
名屋	1,300	39,533	68	40,901
清水	580	1,691		2,271
横濱	1,872	7,544	101	9,517
東京	27,969	5,512		33,481
多治見	6	1,765		1,771
敦賀		681		681

仕向地別	米		其他ノ米		合計	
	全	精	全	精	全	精
函館	115		43,996		44,111	
札幌	595		4,093		4,688	
小樽	18,100		92,878		110,978	
留萌	3,991		32,337		36,328	
旭川	2,054		1,281		3,335	
帯広	1,504		3,247		4,751	
其他	4,911		32,144		37,055	
合計	37,640		1,809,110		1,846,750	

次に當港移出米を主要仕向地別に全鮮移出米と比較すれば左の如くである。

昭和八年釜山港及全鮮移出米ノ主要仕向地別數量對照表

(石)

仕向地別	釜山		全鮮		合計	
	全	精	全	精	全	精
大坂	210,364	101,777	1,399,747	33,488	1,713,601	35,533,680
神戸	44,103	103,829	381,237	8,768	525,137	9,154,412
名古屋	15,805	39,533	76,928	3,340	110,833	2,111,175
横濱	1,300	754	516,809	101	1,317,111	1,241,115
東京	27,969	754	516,809	101	1,317,111	1,241,115
其他	1,873	681	516,809	101	1,317,111	1,241,115
合計	219,414	256,478	3,187,139	46,702	3,233,841	39,119,192

仕向地別	釜山		全鮮		合計	
	全	精	全	精	全	精
下關	13,913		216,295		230,208	
門司			3,109		3,109	
博多	360	47,709	59,670	1,588	61,258	3,535,000
長崎		19,551	27,242	306	29,848	1,042,222
其他	3,647	10,770	9,265	9,096	18,361	1,104,543
合計	17,920	70,030	225,281	1,890	227,171	5,789,865

尙移出米の月別經過は年初政府の第三、四回鮮米買上影響から、割高相場を示現した玄米の手合せ薄に反し、割安な精米は移出好調を辿り、上半期に於ける移出高は七十萬八千餘石で、前年同期に比し四萬八千餘石の出増を示したが、下半期に於ては九月以降精米の割高に商勢一轉して不振に傾き、年末玄米の取引好況を呈したが、前年同期に比し二十一萬八千餘石の出減で結局十七萬餘石の減退を告げた。

釜山港輸出米數量月別二年對照表

(石)

月次	昭和八年		昭和七年	
	月	次	月	次
一	146,615		101,197	
二	93,054		83,373	
三	111,609		114,086	
四	97,777		113,379	
合計				
昭和八年	446,055		392,035	
昭和七年			392,035	

第三 内地貿易 (貨物)

八	九	十	十	十
月	月	月	月	月
一三〇、八七一	八三、五二七	七三、七九五	一八四、二四四	一四三、一五一
一四九、四四一	一八三、〇九四	一三三、三六一	一四三、一五一	一四三、一五一
計	計	計	平均	平均
三二四、四八八	七七八、七四二	一、四六、六〇〇	一、四三、二〇〇	一、四三、二〇〇
二六九、三五〇	九九六、五六四	一、六五六、三五三	一、三三、〇九二	一、三三、〇九二

一三四

備考 一、輸移出高は支米に換算せず。

二、觀察の便宜上輸出来をも加算してあるが、本年は精米四百八十石を含む。

昭和六年以來當港輸移出米は全鮮移出港の首位であつたが、本年は群山港首位を占め當港は第二位である。

輸移出米數量全鮮主要港別二年對照表

(石)

港別	昭和八年	昭和七年	港別	昭和八年	昭和七年
釜山	一、四八六、九〇〇	一、六五六、三五三	元山	四三、七三八	二八、九六五
木浦	六二二、一九八	六二五、〇四五	鎮南	一、三七三、九三三	一、〇九〇、九五六
仁川	一、四三三、八五七	一、五七七、五五四	其他	八三五、九三六	六二四、八一五
群山	一、七八五、五三九	一、六七七、四二七	合計	九、七四一、〇八一	九、七四一、〇八一

備考 本表は支米に換算せず。

而して當港輸移出米と、全鮮輸移出米との種別對照を前年に比較すれば左の如くである。

釜山港及全鮮輸移出米種別數量二年對照表

(石)

種別	昭和八年		昭和七年	
	釜山	全鮮	釜山	全鮮
支米	三三六、四三〇	三、五八一、七六五	六七三、〇三三	三、七四〇、〇九六
精米	一、〇四九、九〇〇	三、七五八、九五四	九六二、九二八	三、二五七、六九三
其他	六〇、〇七〇	二、七〇、三三三	二二、三六二	一、一八一、一五五
合計	一、四八六、九〇〇	七、九七〇、七一	一、六五六、三五三	七、一〇一、九〇四

玄米

逐年生産増大と、品質の改良に依る品位の向上は、其の味覺に於て、其の價格に於て、其の容量に於て、内地米に對抗して優良的地位を占め、年に依り生産豊凶に拘らず移出は大體漸増の傾向を辿り、昭和七年米穀検査制度の改正に依る検査統制は、一層品質向上聲價を博するに至り、昨秋内地側の實收減に反し、朝鮮に於ては實收増に搦て加へて、インフレーション政策の浸潤期に入りて年初二等米二十三圓台、三、四等米孰れも二十二圓台の近年稀なる高値を示現したるも、米價上伸の思惑に依る賣惜みと、需要側に於ける採算不利に依る手合せ薄く、一月下旬頃より國際關係の悪化と、資金關係に依る手持筋賣り出現に、米價は崩落氣配濃厚に秋に決行されたる政府の第三、四回鮮米買上は頗る良結果を齎し、従つて移出は著しく減退し、二月に於ける移出は僅に九千餘石で本年移出の最底を示した、三月に於ては突如米國金融界恐慌勃發あり、我が財界に於ても各取引市場の休業を見るに至り、米價慘落に人氣引立たず、四月に入りては奥地出廻り薄く、各地の在米は前年同様の滯留に加へ期節的品傷みの懸念もあり、手持筋の賣焦りも買氣薄で相場も保合裡に五、六月は孰れも取引頗る不振を告げた、七月に入

第三 内地貿易 (貨物)

りて南鮮地方の水害も局部的に終り、内地残存米は前年同期に比し二十六萬六千餘石の増加公表に人氣は挫け、新米豊作豫想も手傳つて茲に於て米價は二十圓台を割り、十九圓台に崩落し夏枯期に入つたが、八月下旬人氣出直り状態となるも、期正米共に活氣なく十九圓台を持続し、依然取引は不圓滑を免れなかつた、九月に入りて氣遣はれた二百十日の厄日は各地ともに平穩であつたが、直後南鮮及内地西部を襲つた颱風被害懸念から、米價は十月に入りて二十圓台に引戻りたるも、品薄で取引閑散裡に越月した、十一月に入りては米價調節、貯藏の圓滑に基く野積糶、農倉、米倉等經濟施設の利用が例年に於ける新穀出廻旺盛期に於ける相場崩れを整調して二十二圓台の年初に亞ぐ高値を示現し、酒米の高値買付けに移出は好調に推移し、十二月に於ては政府買上米の過少は期待外れに米價は躍らず、二十圓台に崩落を見たるも年末の金融關係と、内地側の見越移入と相俟つて、本年掉尾の出増目覺ましきものがあつた。

移出玄米數量月別二年對照表

(石)

月別	昭和八年		昭和七年		月別	昭和八年		昭和七年	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
一月	一六、〇五六	二、〇七六	三三、一五七	三三、〇九六	八月	四四、五六七	一八、五七三	九三、四三五	一〇七、三五三
二月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六	九月	一一、九二三	一一、九二三	三五、七三七	三五、七三七
三月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六	十月	五九、五六七	五九、五六七	二八、六一四	二八、六一四
四月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六	計	八七、六六九	八七、六六九	六七、一七八	六七、一七八
五月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六	計	三三九、一三八	三三九、一三八	四二五、二八七	四二五、二八七
六月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六					
七月	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六					
計	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六					

七	計	二、〇七六	二、〇七六	三三、〇九六	三三、〇九六	三、三六九	三、三六九	四二、〇〇五	四二、〇〇五
---	---	-------	-------	--------	--------	-------	-------	--------	--------

備考 本年も前年も輸出玄米は皆無である。

玄米平均相場月別二年比較表

(一石建)

月別	昭和八年		昭和七年		騰落(△)	昭和八年		昭和七年		騰落(△)
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	
一月	三三、一六	三三、〇	三三、七	三三、〇	△	三三、一六	三三、〇	三三、一六	三三、〇	△
二月	三三、〇〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇〇	三三、〇	三三、〇〇	三三、〇	△
三月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
四月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
五月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
六月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
七月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
八月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
九月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
十月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△
十一月	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	△

第三 内地貿易 (貨物)

十二月	110,770	113,920	△	111,200	110,570	113,580	△	111,010	110,280	113,360	△	111,980
平均	110,240	110,280		111,800	110,590	110,510		110,200	110,010	110,190		111,100

玄米平均相場十年對照表 (一石建)

年次	二 等	三 等	四 等	年次	二 等	三 等	四 等
昭和八年	110,340	110,590	110,340	昭和三年	117,440	116,980	116,340
同 七 年	110,760	110,510	110,120	同 二 年	111,280	110,280	110,080
同 六 年	116,760	116,380	116,120	同 元 年	114,730	114,100	113,450
同 五 年	113,480	113,980	113,530	大正十四年	116,200	117,570	117,080
同 四 年	117,980	116,980	116,440	同 十三年	114,680	114,150	113,570

精 米

最近の移出米は玄米の減退に反し精米の激増目覺ましく、本年に於ては國營検査實施に依る品質向上と、昨秋收穫期の遅延したる爲、乾燥上支障を來し玄米の調製不利から粗取引歡迎傾向と、精米工業の著しき發達に依る生産増加の折柄、政府の鮮産玄米買上に依る玄米の割高相場を示現した爲、割安の精米の手合せ良好を示し、八、九月の交に於ては新蓬萊米の増産壓迫に一時取引不圓滑を免れなかつたが、玄米の移出不振に比し年初以來好調に推移し、前年に比し八十六萬餘石の増進を告げた。

輸移出精米數量月別二年對照表 (石)

月 別	昭和八年	昭和七年	月 別	昭和八年	昭和七年
一 月	114,820	67,000	一 月	71,820	55,110
二 月	79,990	59,100	二 月	59,800	74,810
三 月	96,190	77,020	三 月	86,100	75,110
四 月	83,890	67,640	四 月	102,100	111,110
五 月	98,350	67,990	五 月	111,330	111,820
六 月	79,020	57,820	六 月	111,090	124,090
七 月	55,070	45,940	七 月	108,220	121,110
七 計	711,820	478,000	七 計	711,820	551,110
合 計	1,080,200	711,820	合 計	1,080,200	711,820
平均	116,820	89,750	平均	116,820	89,750

備考 觀察の便宜上輸出精米を加算してあるが、本年は四百八十石を含む。

精米平均相場月別二年比較表 (一石建)

月 別	一 等		昭 和 八 年	昭 和 七 年	騰 落 (△)	二 等	
	昭和八年	昭和七年				昭和八年	昭和七年
一 月	114,820	67,000	114,820	67,000		114,820	67,000

年次	月										
	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
昭和八年	二〇、九八	二〇、八〇	二〇、七三	二〇、八三	二〇、七七	二〇、八三	二〇、八〇	二〇、八〇	二〇、八〇	二〇、八〇	二〇、八〇
昭和七年	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二
昭和三年	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二
昭和二年	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二
大正十四年	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二
大正十三年	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二
同	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二	二〇、七二

大豆

年次	一等	二等	三等
昭和六年	二六、五五	二六、三九	二六、三九
昭和五年	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇
昭和四年	二九、二〇	二八、五二	二八、五二
大正十四年	二六、三九	二六、三九	二六、三九
大正十三年	二六、三九	二六、三九	二六、三九
同	二六、三九	二六、三九	二六、三九

年初近年稀なる高値に取引活況を示したが、二月に入りて米價の崩落と、滿洲大豆安に舊正關係の出穀減手傳つて手合せ薄く、越月して需要漸増に商勢も次第に見直され、四月を迎へ銀高に依る滿洲大豆の強調に相場も昂騰を辿り、加ふるに滿洲大豆の品薄に移出好調に推移したが、梅雨期に入りて需要減退し移出不振を告げた、七月に入りて出廻減に三等十四圓九十七錢四等十四圓六十七錢の本年最高の高値を示現したが、採算不利から入注薄く、八月に入りて新穀豐作豫想に相場は軟調氣配を示したるも、依然取引不勢に越月し十三圓台に崩落し漸次需要を喚起した、收穫期に入りて天候不良の爲、作遅れは中旬以來農繁と相俟つて季節的需要を控へ出穀尠く、内地市場は滿洲大豆の壓迫を受け年末出穀旺盛に十一圓台の安値を示現したが、金融關係に移出活況を告げた。

昭和八年移出大豆仕向地別數量表 (石)

仕向地	數量	仕向地	數量	仕向地	數量
門司	一、四六四	長崎	一、〇八二	三和	一、三三三
博多	一八、八七四	佐世保	四、七〇六	宇和島	六、八五七

第三 内地貿易 (貨物)

安田 (小豆島)	下關	境	尾道	神戶
一、四六九	三六、八五〇	七二六	二、〇五五	二、三三五
大	名古	清水	東京	小樽
四、七七七	五、六六三	四三六	一、四五四	二、三三三
旭	留	臺	其	合
一四二	川	崩	灣	他
八〇六	八四〇	五三〇	四、九〇三	一〇、七三一

輸移出大豆數量月別二年對照表 (石)

月	昭和八年	昭和七年	月	昭和八年	昭和七年
一	二四、六三七	九、七五一	一	一、六八三	二、四二〇
二	五、七八九	六、三六七	二	二、二四〇	三、五三三
三	七、〇六四	七、四六七	三	一三、四三三	五〇、九八三
四	七、五五四	一、〇八三	四	一三、五〇五	五三、三〇一
五	八、二四六	一、四三三	五	一九、三一一	三〇、六二二
六	三、五二九	一、一九四	六	五三、五八三	一四、四三四
七	二、四二九	一、五五六	七	一〇、九二六	一四、〇二八
計	五六、八〇九	二六、九〇五	計	一〇九、五九一	一六八、三三九
均	二、四二九	一、五五六	均	九、一二六	一四、〇二八

備考 觀察の便宜上輸出大豆を加算してあるが、本年は二十石を含む。

大豆平均相場月別二年比較表 (一石建)

月	昭和八年		昭和七年		騰落 (△)	昭和八年		昭和七年		騰落 (△)
	三	等	四	等		三	等	四	等	
一	一三、七五	一〇、四二	一三、三六	一〇、三三	三、〇三	一三、七	一〇、三	一三、三	一〇、一	三、二六
二	一三、〇〇	一〇、六五	一三、一四	一〇、五二	二、五二	一三、〇	一〇、四	一三、〇	一〇、一	二、九
三	一三、一九	一〇、五三	一三、〇四	一〇、四四	二、五〇	一三、一	一〇、三	一三、一	一〇、一	三、〇
四	一四、六三	一〇、一〇	一四、六六	一〇、一〇	四、五六	一四、六	一〇、一	一四、六	一〇、一	四、五
五	一四、八〇	一〇、九四	一四、九〇	一〇、九四	三、〇〇	一四、八	一〇、九	一四、八	一〇、九	三、九
六	一四、九七	一〇、〇五	一四、五五	一〇、〇五	四、五〇	一四、六	一〇、〇	一四、六	九、八七	四、七
七	一四、六〇	一〇、〇五	一四、五五	一〇、〇五	四、五五	一四、三	一〇、〇	一四、三	九、八七	四、四
八	一三、七八	一〇、三〇	一三、六八	一〇、三〇	三、三八	一三、五	一〇、〇	一三、五	九、八七	三、六
九	一三、七三	一〇、〇四	一三、六八	一〇、〇四	三、六八	一三、三	一〇、〇	一三、三	九、八七	三、五
十	一三、〇〇	一〇、〇四	一三、七五	一〇、〇四	三、七一	一三、七	一〇、〇	一三、七	九、八七	三、九
十一	一一、九七	一〇、三六	一一、七五	一〇、三六	一、三九	一一、七	一〇、三	一一、七	一〇、一	一、六
十二	一三、七五	一〇、三三	一三、三六	一〇、三三	三、四二	一三、七	一〇、一	一三、七	一〇、一	三、六
平均	一三、八〇	一〇、一〇	一三、四七	一〇、一〇	三、三七	一三、四	一〇、一	一三、四	一〇、一	三、三

當地大豆平均相場十年對照表 (一石建)

第三 内地貿易 (貨物)

年次	上	並	年次	上	並
昭和八年	一三、八〇〇	一三、四七〇	昭和八年	一六、五五〇	一六、三六〇
昭和七年	一一、〇〇〇	一〇、九一〇	昭和七年	一六、〇九〇	一五、八一〇
同 同	八、五三〇	八、三三〇	同 同	一七、二四〇	一六、九三〇
同 同	一一、七〇〇	一一、四五〇	同 同	二〇、七七〇	二〇、四四〇
同 同	一六、三二〇	一六、〇三〇	同 同	一八、三二〇	一七、六六〇

鮮魚

當港より内地仕向の鮮魚は、概ね北は蔚山から南は全南巨文島に至る沿岸漁場の漁獲に屬し、近年漁業界の進捗に伴ひ發動機船を使用する漁業の増加に依り、漁業區域は擴大し漁獲高は著しく増進を來し、殊に本年は久しきに互る不景氣も漸く緩和さるゝに至り、需要増進に伴ひ相場も高調に取引は活況を告げた、而して下關仕向多額に上るは同地に於て中繼せらるゝもの又多額に上り、實需とは大差あることは言ふ迄もない處である。

移出鮮魚仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	一五八、一五〇	一二三、三九八	四、七五三	三、〇一〇

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
下關	三、四七九、五九五	二、五九〇、四八三	四六〇、二八九	一〇〇、四六七
博多	二五、九三〇	六七、〇〇〇	一、一七五	七、六八三
其他	六一、六八一	一一、三三三	四、九七六	七、三〇〇
計	三、七三七、一〇六	二、八八三、九〇〇	五七〇、七五六	一一五、四五六

輸移出鮮魚數量月別二年對照表 (斤)

月別	昭和八年		昭和七年		月別	昭和八年		昭和七年	
	八月	七月	八月	七月		八月	七月	八月	七月
下關	一、三五五、一九三	一、一五一、〇二一	一、一五一、〇二一	八	一、七一一、四一四	八三、〇八二	一、七一一、四一四	八三、〇八二	
博多	五九六、四五三	九七、一四四	九七、一四四	九	九六、五三一	一六九、五七一	九六、五三一	一六九、五七一	
其他	三六二、五一四	一三九、六五七	一三九、六五七	十	一四六、一一三	二八三、三三一	一四六、一一三	二八三、三三一	
計	一、一五五、一四三	一、一五五、一四三	一、一五五、一四三	十	三、七四〇、〇四〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、七四〇、〇四〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
計	二、五四八、四八九	一、六四一、七四三	一、六四一、七四三	十一	三、三三三、八三六	三、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、八三六	三、〇〇〇、〇〇〇	
計	八三、五六九	三二五、四一六	三二五、四一六	平均	三二二、六九九	二五八、八七一	三二二、六九九	二五八、八七一	

備考 本表は觀察の便宜上輸出鮮魚を加算してある。

鮮魚平均相場月別一覽表

第三 内地貿易 (貨物)

商標又ハ品柄	單位	昭和八年												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
鯛	十貫	六四、〇〇	六五、〇〇	六〇、〇〇	五〇、〇〇	三〇、〇〇	二六、〇〇	四一、〇〇	四三、〇〇	五二、〇〇	四五、〇〇	七〇、〇〇	四九、一七	四〇、三三	
鮭	同	四一、〇〇	四〇、〇〇	三七、〇〇	三三、〇〇	二四、〇〇	一五、〇〇	一三、〇〇	一〇、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	三五、〇〇	二四、七五	二五、三三	
鱈	同	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	三三、〇〇	
鯖	同	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	二七、〇〇	
鮪	同	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	
計	同	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	

釜山水産株式会社魚市場賣買鮮魚數量月別二年對照表 (斤)

月別	昭和八年												昭和七年											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一月	七六七、一六八	九三三、五八〇	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二月	八二〇、六五〇	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
三月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
四月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
五月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
六月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
七月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
八月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十一月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十二月	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
平均	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
前年	七五五、五五六	六三八、三三一	九二二、三八八	六〇七、七二五	七〇八、八七五	一、〇五七、六一九	八	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

乾 鱈

内鮮人共通の需要品で江原道を主産地として、逐年製造方法の改善に依る品位の向上は、北海道産に對抗して人氣を博し、著しく需要増進を來し、一方内地經由布哇及南洋輸出好況に依り、相場も高調に取引活況を告げた。

移出乾鱈仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)			價額 (圓)		
	昭和八年	昭和七年	増減 (△)	昭和八年	昭和七年	増減 (△)
神戶	二七九、九二〇	三〇八、九二六	△	三九、一三三	三三、七四三	△
東京	四六〇	五五、三四七	△	七三	五、六一〇	△
下關	二七三、五八五	三六八、一八〇	△	三九、六四一	三八、七九八	△
門司	一四三、五〇〇	三三、〇〇〇	△	二一、五六九	三、四一〇	△
臺灣	三六三、三四〇	三六三、五八〇	△	三五、五八〇	三八、九六一	△
其他	四五〇、一三四	五二、七六四	△	六三、三三六	五四、八八一	△
計	一、〇〇、一七三	一、〇六、八七五	△	一〇、三三三	一七、五七六	△

乾鰯平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄 開鰯(二等合格品)	單位 百斤	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
		六 四	一六、五〇	一四、五〇	一四、〇〇	一三、九〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇

明太魚卵

本品は最近食鹽、唐辛の施用量の改善により、著しく内地人の嗜好に適し、冬期に於ける副食用として賞味せられ、價額の低廉なると相俟つて逐年需要増進を來し、殊に舊冬十月より一月中旬に互る漁期に於ける咸南沿岸は母魚明太魚の漁獲豐漁を告げ、相場も高調に出増を示した。

移出明太魚卵仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	三、九七四	三、三七一	一、二四五	三、五二九
神 戶	三、〇九八	三、八九四	七八七	三、八八八
名 屋	七三五	一、七五八	二二七	四〇〇
東 京	九、三九八	三、五九一	三、二七八	六、六二三
計	一七、七六五	一〇、八三六	六、三三九	一四、四四〇

明太魚卵平均相場月別一覽表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
下 關	三、〇八〇	二、七六七	八二〇	一、四一〇
門 司	二、〇九八	二、三五三	六九七	一、四一〇
博 多	二、五八三	四、〇〇〇	七五〇	一、三三八
長 崎	一、七五五	四、三三四	四四〇	九八〇
臺 灣	一、〇八一	三、〇〇〇	一一五	二一〇
其 他	七三、五四八	一三三、三九九	三、九五四	三六、一一〇
計	八〇、三六六	一三三、三三七	一三、〇三六	四九、一三〇

海 苔

本品は移出水産製中重要なる地位を占め、品質の統一、製法の改良、製品に對する検査の向上に伴ひ、本場淺草海苔に對抗して聲價を昂め、生産増加ミ、販賣取引方法の改善により逐次出増の趨勢を辿り、殊に舊冬以來天候好順に全南、慶南産孰れも發育順調、新物豊收の折柄、内地に於ては東京、愛知、三重、福岡、熊本の各産地孰れも着生、蕃殖概して不良、收穫減に伴ひ相場も高調に取引活況を告げた。

移出海苔仕向地別數量價額二年比較表

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
		五貫匁	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

仕向地	数量 (斤)		昭和八年 價		昭和七年 價		額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	三八、二四九	六四、一九四	一〇二、六四五	一七六、六七六	△	七四、〇三二		
神 戸	一〇五	一八六	三九七	六八六	△	三八九		
名 屋	三二二	三二七	八七八	一、〇〇五	△	一七		
東 京	七〇、五七二	三三、八九一	一九四、五七四	六一、〇九四	△	一三三、四八〇		
下 關	三九、八二六	一一、一四三	九一、六一二	三五、九八三	△	五五、六二八		
門 司	一、四一九	五六四	三、八二二	一、六一	△	二、一〇〇		
博 多	一、五五九	二、〇七五	三、八三九	五、四四四	△	一、〇八五		
長 崎	五五	二八	一三九	六八	△	六一		
其 他	九五、三五六	四四、一三三	二五九、八一八	一三四、九六八	△	一三四、八五〇		
計	二四七、四三三	一四六、三三三	七〇七、七〇一	二四七、三三三	△	四六〇、三六八		
月 別	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
一 月	〇四、七一〇	一〇、〇六九	三、七〇九	三、七〇九		三、七〇九		
二 月	〇四、〇一〇	一四、八二四	三、七〇九	三、七〇九		三、七〇九		

輸移出海苔數量月別二年對照表 (斤)

月	昭和八年	昭和七年	月	昭和八年	昭和七年
三 月	五八、三二二	三二、三三四	均 計	三、一三三	三、一三三
四 月	五五、四一四	三〇、四一八	月 別	二、九三二	二、九三二
五 月	三四、一四七	二、五八四	計	一、三六一	一、三六一
六 月	八、七九九	一、〇三九	均 計	一、三六一	一、三六一
七 月	一一、七三三	二、一七六	計	一、三六一	一、三六一
七 月 計	一、五五九	二、一七六	均 計	一、三六一	一、三六一

備考 本表は觀察の便宜上輸出海苔を加算してある。

海苔平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
洛 東 産	小判 千枚	二〇、〇〇〇	一四、五〇〇	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
河 東 産	同	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇
中 上	同	一〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇
中	同	七、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇	〇〇、〇〇〇

林 檜

内地東北、北海道産に比して光澤美麗、風味佳良は近年著しく需要を喚起し、生産増加と相俟つて逐年移出増進を來し、本

第三 内地貿易 (貨物)

一五二

年上半期に於ては前年青森林檎の豊收の影響を受けて取引不振を免れなかつたが、果實期に入りて青森地方は氣候不順に加へ病虫の被害を受けて平年作比、生産四割減豫想に七月に入りて早くも、視林檎は近年稀なる高値に需要増進を示したが、朝鮮に於ても南鮮地方三回に互る風水害に依る生産減は、著しく相場の昂騰を來し、移出は逐月好勢を辿り殊に出盛期に入り、鐵道局に於て鎮南浦産林檎の釜山經由輸移出四百噸を越ゆる場合に於ける運賃割引實施に伴ひ、未曾有の出増を告げた。

移出林檎仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	一一、九八八	一一、五七三	一八、〇六六	一三、三三三
神 戶	三四九、七七〇	二五、九三六	五三、七八一	三、一〇七
名 屋	六、六九五	六、八一三	九三六	八〇五
東 京	九四、三六七	七七、九九一	一三、〇七九	八、八七三
下 關	七四九七、一九二	五、七九、六九三	九八九、三二九	六五七、二六六
門 司	一一、八九三	五二、六四二	一、六四九	五、六五八
博 多	五五、六八四	三三、三九一	六、三二二	三、七〇八
長 崎	一九、三九五	一〇、七二一	二、五七四	一、一八九
其 他	五三八、五三九	三二、九九七	七二、三三四	六二、二〇五
計	八、六六六、四三三	六、六六八、八〇五	一、一五六、九九九	七五、七〇一

移出林檎數量月別二年對照表 (斤)

月 別	昭和八年		昭和七年		月 別	昭和八年		昭和七年	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
一 月	一一〇、九四七	五〇、九五〇	八	五	一	五四六、三三三	一、七四四、七六一	一、七四四、七六一	五二四、七六一
二 月	二二七、五八七	二二八、〇九七	九	九	二	一、五一一、〇八一	一、七四五、七七〇	一、七四五、七七〇	一、七四五、七七〇
三 月	三九五、五二六	三三八、七四五	十	十	三	二、二七、六七〇	一、三八九、八三三	一、三八九、八三三	九四〇、五三七
四 月	三三、八三四	七八、五四七	十	十	四	一、九九九、五七九	一、九九九、五七九	一、九九九、五七九	九四〇、五三七
五 月	六、三六五	一三、八二九	一	一	五	一、四三七、〇二七	一、四三七、〇二七	一、四三七、〇二七	五六五、八一六
六 月	四五九	六三七	計	計	六	七、三三三、八一八	五、四六九、六一八	五、四六九、六一八	五、四六九、六一八
七 月	三七七、三五七	三〇三、六〇四	均	均	七	八、六六六、四三三	六、六六三、四三三	六、六六三、四三三	五五三、五三五
計	二七、三三五	一、一三〇、〇〇五	合	合	計	七三三、八六八	六、六六三、四三三	六、六六三、四三三	五五三、五三五

林檎平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月 別												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
並 品	一貫匁	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

栗

第三 内地貿易 (貨物)

一五三

支那天津粟に對抗し最近著しく好評を博し、出増の趨勢に在る平壤粟は、殊に昨七年に於ては日支事變に加ふるに、爲替安の影響に依る採算不利から天津粟の取引不振の機に乗じ顯著なる出増を告げたが本年は開花時に於ける天候不順の爲、結實不良、前年比約一割の減退を告げ、搗て加へて日支貿易好轉に伴ひ、環境の不利に出減を免れなかつた。

移出粟仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)			價額 (圓)		
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)
大 阪	九七,七三九	一四三,三〇〇	△	一六,六二六	二五,二九四	△
神 戸	一三六,九九六	一五,三四八	△	一四,三七九	四,七四九	△
名 古 屋	一三三,七九六	一〇,九〇九	△	一四,三七一	一三,四三七	△
横 濱	三,二七五	五,七四七	△	六三三	九九八	△
東 京	三八九,六四七	三六八,二一八	△	四七,四一四	五五,三〇〇	△
下 關	九二六,二五八	一,一〇一,八八八	△	八八,八七五	九八,五五七	△
門 司	七四,一〇〇	八八,五三二	△	一〇,六七二	九,七七一	△
博 多	六三,五〇〇	四一,八九七	△	九,一七五	五,一九八	△
長 崎	四三,六二六	四,一三一	△	五,七八四	五,二二四	△
其 他	三六九,九六八	五三三,〇〇七	△	六,五六〇	七,九八六	△
計	二,二二一,〇四一	二,四二一,四〇九	△	二五〇,〇六一	二九二,〇二二	△

粟平均相場月別一覽表 (平壤)

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
平壤産(上)	一石	—	—	—	—	—	—	—	—	五四,〇〇〇	五三,〇〇〇	五七,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五四,七七五	四九,五〇〇

牛 皮

本品は内地に於ける製革原料に供せられ、斯業の發展に伴ひ内地産に比し纖維緻密にして製革後緊張力に富み、鞣皮原料として皮質好適なる爲、逐年需要増進の趨向を來し、殊に本年は爲替關係に基く歐米並に支那産の輸入不振の折柄、軍需方面の實需増に伴ひ相場も高調に取引状況を告げた、主なる仕出地は京城、金泉、釜山等で仕向地は東京、大阪、横濱を主とす。

移出牛皮仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)			價額 (圓)		
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年	昭和七年	増減(△)
大 阪	四三八,二三八	七六三,三六一	△	一六三,六六四	二二七,三五五	△
横 濱	七,〇〇〇	三,一九〇	△	一,四一〇	一一,八八八	△
東 京	五八一,八四六	一三三,一七二	△	二一九,六七七	七五,七二〇	△
其 他	九二七,九七七	八八三,五七三	△	二五〇,七八二	二八九,六九八	△

牛皮平均相場月別一覽表

計	1940. 1941. 1942.														
	1940. 10, 11	1941. 1, 2	1942. 3, 4	1941. 5, 6	1942. 7, 8	1941. 9, 10	1942. 11, 12	1941. 1, 2	1942. 3, 4	1941. 5, 6	1942. 7, 8	1941. 9, 10			
商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
改良並乾皮	百斤	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000
小	同	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000	3,100,000
平均		2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000	2,800,000

魚油

鯷油を主とし内地に於て精製硬化の上、輸出せらるゝもの及石鹼原料に供せらるゝもの、殊に非常時軍需化學工業原料として需要は年々増加の傾向に在り、本年は盛漁期に於ける天候不良の爲、鯷漁不振に依る生産減退は、販賣統制の円滑と相俟つて近年來の高値取引好調に前年比、數量の減少したるに拘らず價額は増進を告げた。

移出魚油仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年
大 阪	5,300,000	5,900,000	△	1,270,000
神 戶	3,900,000	3,100,000	△	1,240,000
平均	4,600,000	4,500,000	△	1,255,000

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年
東 京	2,800,000	2,800,000	△	1,510,000
下 關	2,100,000	2,100,000	△	1,140,000
門 司	1,500,000	1,500,000	△	670,000
其 他	1,900,000	1,900,000	△	1,060,000
計	8,300,000	8,300,000	△	4,380,000

魚油平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
鯷油(一等合格品)	一罐	—	—	—	—	2,100,000	1,180,000	1,180,000	1,180,000	—	—	—	—	1,180,000	1,180,000

繰 綿

内地紡績業の殷盛に伴ひ逐年移出増進の趨勢に在り、殊に本年は爲替關係及六月以降印綿の取引杜絶に依る内地市場の需要旺盛に、近年來の高値示現は、昨秋豊收と相俟つて顯著なる増進を告げた。

移出繰綿仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	増減(△)	昭和八年
大 阪	2,800,000	1,300,000	1,500,000	1,370,000
平均	2,800,000	1,300,000	1,500,000	1,370,000

神 戶 其 他 計	昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額
神 戶	1,500	1,499	1	1,100
其 他	1,000	1,000	1	1,000
計	2,500	2,499	2	2,100

移出線綿數量月別二年對照表 (百斤)

月 別	昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額
一 月	5,100	5,100	—	—
二 月	3,960	3,960	—	—
三 月	3,541	3,541	—	—
四 月	1,777	1,777	—	—
五 月	5,954	5,954	—	—
六 月	600	600	—	—
七 月	11,824	11,824	—	—
八 月	—	—	—	—
九 月	—	—	—	—
十 月	—	—	—	—
十一 月	—	—	—	—
十二 月	—	—	—	—
平均	—	—	—	—
前年	—	—	—	—
平 均	—	—	—	—
計	31,826	31,826	—	—

線綿平均相場月別一覽表 (木浦)

商標又ハ品柄	單位	月 別												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
陸地綿 (並等)	百斤	4,100	4,110	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100	4,100

在來綿同 (同)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000

家 蠶 繭

本年の産繭額は春繭四十二萬七千餘石、夏秋繭二十四萬餘石、合計六十六萬八千餘石で、之れを前年に比すれば、春繭一萬餘石、夏秋繭六萬四千餘石、合計七萬四千餘石の増収に加へ、米國に於けるインフレーション景氣に、絲價は年初平均七百八十圓の高値を示し逐月昂騰の一途を辿り、六月に至り平均九百六十二圓の本年最高値を示現し、従つて春繭は前年比二倍以上の高値に内地需要頗る活潑に出増したが、七月以後米國の景氣反動は生絲消費の激減を招來し、本邦繭の大増産が手傳つて絲價は再び轉落し、七月に早くも平均八百九十二圓に崩落し、十月に入りて七百五圓、十一月に入りて五百九十圓に急落の影響を受けて、繭價も七月以後絲價に追隨して漸落歩調を辿るに至りたるが、前年比夏繭約三割高に依然取引旺盛を持續し、秋繭の出廻期に至り繭價は前年比、一割安に出減したが、春繭、夏秋繭を通じて數量に於て前年比、七割強の出増を告げた。

移出家蠶繭仕向地別數量價額二年比較表

仕 向 地	數量 (斤)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	3,185	7,166	3,984	7,328
神 戶	3,676	1,001	1,675	1,578
名 古 屋	3,930	1,577	5,955	1,384
横 濱	131	60	7,399	8,728
計	11,922	9,744	19,022	17,018

東 京		博 多		其 他		計	
昭和八年	四六〇	八七六	八七六	八七六	八七六	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
昭和七年	五九〇	△	△	△	△	八四七、九一三	八四七、九一三
増減 (△)	△	△	△	△	△	三三三、五一七	三三三、五一七
昭和八年	一三〇	七四九	五〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇
昭和七年	五二八	七四九	五〇	八八七、一九八	八八七、一九八	九三三、〇〇〇	九三三、〇〇〇
増減 (△)	△	△	△	△	△	六六八、七三三	六六八、七三三

移出家蠶繭數量月別二年對照表 (斤)

月 別	昭和八年	昭和七年	月 別	昭和八年	昭和七年
一 月	二八、三八一	六八、九七六	一 月	一六六、八五九	一一一、九六四
二 月	一一、三六三	二七、一五九	二 月	一〇六、七五三	八〇、五〇三
三 月	二一、八三四	三七、六二二	三 月	一〇〇、八四七	一一九、〇八八
四 月	八二、一〇六	三〇、三〇一	四 月	八三、九九七	七八、二九四
五 月	六七、八八三	四六、五七四	五 月	九三、二二四	五七、七三三
六 月	六三、三二七	九四、六九三	六 月	八四、〇〇八	五八、八三二
七 月	二七、五八四	三〇、三二五	七 月	一一一、九〇一	八三、四四六
八 月	二九、六三八	一三九、五〇一	八 月	九三、四九二	七四、四九六
平 均	二八、三八一	二七、一五九	平 均	一〇六、七五三	八〇、五〇三
計	二八、三八一	二七、一五九	計	一〇六、七五三	八〇、五〇三

家蠶繭平均相場月別一覽表 (大邱)

商 標 又 ハ 品 柄	單 位	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	平 均	前 年 平 均
本 乾 燥	十 貫 匁 二 六 〇 〇 〇	—	—	—	—	—	一、五〇、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	八五、〇〇〇	八五、〇〇〇	一一〇、三八	九九、三三

生 絲

世界的財界の恐慌と、驚異的人絹進出に基因したる蠶絲恐慌は、本春大需要國たる米國のインフレーション景氣勃發に遭遇し、絲價の暴騰を促がし、六月に入りて本年最高の千七十一圓に反撥するに至り、茲に於て過去數ヶ年苦境に立つた製絲家は漸く愁眉を開き、沈滞氣分も解消されたる觀を呈したるも東の間で、七月には早くも景氣反動に次ぐに本邦繭の大増産、米國に於ける生絲消費激減等、惡材料に累せられ絲價は再び急落過程を辿り、就中十月及十一月の暴落は凄慘を極め、十一月の最低五百二十圓は六月の最高に比すれば實に半値以下を示す等、本年の生絲界は激動に終始したが、全体の地位を靜觀すれば、前年中の平均相場に比し本年は六分餘騰貴に相當する七百五十六圓を示し、内地需要好調に生産増の折柄出増を告げた。

移出生絲仕向地別數量價額二年比較表

仕 向 地	數 量 (斤)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	一、三三〇	△	一、一〇〇	五、七三三
神 戶	八二六、五七三	六九七、三〇六	六、二二八、八四六	五、一四一、一四二
名 古 屋	一七、三三三	〇、〇〇〇	二、三三三、七八七	三、七三三、七三三
横 濱	四、八七三、三三五	四、二二二、九七九	七〇七、五七三、七〇七	三、三三三、三三三
計	六、〇二七、二〇一	五、〇二〇、二九一	一、三三〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

東 京	移出生絲數量月別二年對照表 (斤)	
	昭和八年	昭和七年
計	1,584,377	1,584,377
東 京	10,000	9,750
其 他	238,098	294,523
	△	△
	1,574,377	1,574,627
	△	△
	1,584,377	1,584,377

月 別	移出生絲數量月別二年對照表 (斤)	
	昭和八年	昭和七年
一 月	218,685	133,700
二 月	35,335	49,184
三 月	81,495	72,825
四 月	133,020	100,745
五 月	128,955	115,000
六 月	130,157	98,471
七 月	158,339	569,935
計	1,584,377	1,584,377
	△	△
	1,584,377	1,584,377

柞 蠶 生 絲

本品は大部分滿洲産で遼河以東の地方を主産地とし、内地仕向地の關係上、新義州に於て輸入手續を了する當港仲繼移出品の輸出好調に出増した。

に屬し、其の過半は輸出向絹紬原料に消費せらるゝが、近時之が用途の擴大は逐年需要増進の趨向に在り、本年は殊に絹織物の輸出好調に出増した。

移出柞蠶生絲仕向地別數量價額二年比較表

仕 向 地	數 量 (斤)		價 額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大 阪	15	10,800	57	36,588
神 戶	—	7,000	—	13,800
名 古 屋	650	600	1,350	1,200
横 濱	1,000	1,000	2,000	2,000
東 京	550	—	1,100	—
其 他	2,374,747	2,343,225	9,145,965	7,694,747
計	3,374,747	3,451,625	12,575,747	11,711,335

柞蠶生絲平均相場月別一覽表 (新義州)

商標又ハ品柄	單位	柞蠶生絲平均相場月別一覽表 (新義州)													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年平均
小柞優良 (滿洲産)	百斤	437,000	439,000	437,000	437,000	437,000	438,000	438,000	438,000	438,000	438,000	438,000	438,000	438,000	438,000

牛

本品は體質強健、性質温順で而も粗雑な飼養に耐へ得るので、農耕及運搬用として需要増の外、牛皮製作用及肉牛として佳良なる爲、内地に於て聲價を博し、逐年出増の趨向に在るが、本年は爲替關係に依る濠洲及青島牛の輸入難から顯著なる出増を告げた。

移出牛數量仕向府縣別二年對照表 (頭)

仕向府縣別	昭和八年		昭和七年		仕向府縣別	昭和八年		昭和七年	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
山口	六、四六五	四、六六七	—	—	京都	—	—	—	—
廣島	六、二五二	四、五〇〇	—	—	奈良	—	—	—	—
岡山	六、六〇〇	四、七〇〇	—	—	兵庫	—	—	—	—
兵庫	八、八四三	七、四三三	—	—	高知	—	—	—	—
高知	一、四三三	八、八三三	—	—	愛媛	—	—	—	—
愛媛	一、三二二	二	—	—	香川	—	—	—	—
香川	八、七一九	七、二七二	—	—	大阪	—	—	—	—
大阪	三、三〇〇	三、三六六	—	—	長崎	—	—	—	—
大坂	三、三〇〇	三、三六六	—	—	計	—	—	—	—
奈良	二、〇二〇	一、三〇〇	—	—					

牛平均相場月別二年比較表 (一頭建)

月別	北		中		大		北		中		大		北		中	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
一月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	九、〇〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

移出牛數量仕出道別二年對照表 (頭)

仕出 道別	昭和八年		昭和七年		仕出 道別	昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額		数量	金額	数量	金額
慶尚南道	17,749	3,507	13,544	3,507	江原道	21,109	3,507	21,109	3,507
慶尚北道	10,111	2,591	9,610	2,591	畿海道	21,591	1,994	19,944	1,994
全羅南道	1,225	889	833	889	京畿道	889	584	584	584
全羅北道	98	148	33	148	忠清南道	1,225	148	1,473	148
忠清南道	3,284	1,295	1,955	1,295	忠清北道	3,284	1,295	3,284	1,295
忠清北道	723	300	300	300	合計	58,669	30,933	50,933	30,933

備考 牛は其の移出迄に内鮮人の仲買人或は問屋等の手を幾回も經由し、且つ從來より鮮人牛商は習慣的に遠隔の地より牽出して當地釜山鎮の牛市場に出すのが多い、之等の生産地不明のものは總て慶尚南道産として本表に掲げたから事實の生産地と多少の相違は免れない。

釜山鎮牛市場賣買牛數量月別二年對照表 (頭)

月別	昭和八年		昭和七年		月別	昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額		数量	金額	数量	金額
一月	4,235	4,995	4,558	4,995	一月	4,235	4,995	4,558	4,995
二月	3,190	4,033	1,943	4,033	二月	3,190	4,033	1,943	4,033
三月	5,021	782	2,513	782	三月	5,021	782	2,513	782
四月	755	4,427	4,33	4,427	四月	755	4,427	4,33	4,427
五月	67	4,834	50	4,834	五月	67	4,834	50	4,834
合計	17,749	30,933	13,544	30,933	合計	17,749	30,933	13,544	30,933

木炭

近年滿洲輸出の漸増、内地に於ける豆炭及煉炭等代用炭の著しき勃興に依り、内地市價の低減に伴ひ逐年移出は減退を免れない趨勢に在り、殊に本年滿洲輸出激増は著しく相場の昂騰を來し、採算不利から内地筋の需要不振に出減した。

移出木炭仕向地別數量價額二年比較表

仕向 地	昭和八年		昭和七年		仕向 地	昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額		数量	金額	数量	金額
大阪	2,821	10,188	2,105	7,330	大阪	2,821	10,188	2,105	7,330
神戸	2,825	10,170	2,734	8,857	神戸	2,825	10,170	2,734	8,857
東京	3,975	11,337	11,949	39,207	東京	3,975	11,337	11,949	39,207
下關	1,717	2,377	1,568	2,377	下關	1,717	2,377	1,568	2,377
其他	1,713	2,377	1,568	2,377	其他	1,713	2,377	1,568	2,377
合計	11,031	36,455	10,914	36,455	合計	11,031	36,455	10,914	36,455

木炭平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
根	十貫匁	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
枝	同	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000

海藻

本年内地に於ては各産地の生産概して不良なるに拘らず、朝鮮では産地一帯平年作以上で採取良好の折柄、検査の向上は内地産に對抗し聲價を博し、需要増進に相場も高調に出増を告げた、各品に對する需給狀況は左の如くである。

(イ)、石花菜

本品は内地に於ける食料又は工業用寒天製造の原料品で、寒天輸出の好勢に伴ひ、需要旺盛に相場も前年比、二割五分高の好調に出増した。

(ロ)、海 藻

本品は専ら機業糊付用で内地機織の盛況に、相場も前年に比し七月眞海藻は十割高の百圓、袋海藻は五割弱高の三十圓の孰れも高値を呼び、眞海藻の出廻良好に出増した。

(ハ)、銀 杏 草

本品は塗壁及漆喰混用糊糊の代用として逐年出増の傾向を辿り來つたが、本年は北鮮地方に於ける建築界の活況と、滿洲方面輸出増から移出不振に減退を告げた。

(ニ)、其他の海藻

本品中には櫻草、小凝草、於期草等を含んでゐるが、採取良好は内地側生産不良に依る商情の好調に出増した。

移出海藻仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	9,010, 433	1,335, 181	225, 509	37, 858
神戸	4,400, 000	4,510, 000	8, 000	0
下關	1,119, 920	3,633, 455	25, 926	6, 559
博多	57, 500	6, 830	1, 578	11, 200
其他	6, 688, 945	5, 588, 655	117, 923	88, 700
計	1, 877, 878	1, 070, 000	447, 958	101, 000

海藻平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	月												平均	前年平均	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
石花菜 (二等合格品)	百斤	35, 000	—	—	—	—	10, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000	30, 000
眞海藻 (同)	同	—	—	—	—	20, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000	100, 000

品名	昭和八年	昭和七年	増減 (△)
袋海羅 (同)	—	—	—
銀杏草 (同)	—	—	—

肥料

インフレーション景気の浸潤と、生糸市價の回復に依る農村購買力の擡頭に、肥料界の好轉に伴ひ魚糟、米糠の出荷良好に出増を告げた、各品に對する需給は左の通りである。

(イ)、乾 魚

本品は同質肥料なる菜種糟及油糟等に依り代用せられ逐月減退の傾向にあるが、本年は鱧、鯨等の漁撈不漁から著しく出減した。

(ロ)、魚 糟

本品は大部分鱧搾糟で硫酸肥料の下落に伴ひ魚肥の消化鈍調を辿つたが、夏肥需要期に入り春蠶の高値に農村の購買力の増進と、近年飼料は養鶏飼料として需要増とに依り取引活氣を呈し鱧の末漁期に於て比較的豊漁に出増した。

(ハ)、獸 骨

本品の主なるものは牛骨で内地に於て骨粉に製造せられ、殊に氣候土地の關係上、鹿児島地方を大消費地とし、煙草及稻肥として獨特の需要があり、本年は爲替關係に依る上海、青島、漢口、產品の輸入難から相場の高騰を來し出増した。

(ニ)、米 糠

本品は内地に於て主として配合肥料の原料及飼料として逐年需要増進の傾向に在り、殊に本年に於ては生糸の高騰に依る農村景氣の回復は、鮮内に於ける精米工業の發達に依る生産増加と相俟つて取引良好に出増を告げた。

移出肥料仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (百斤)		價額 (圓)	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
大阪	八四、八六〇	一四、五三二	八、二七九	一、三三三
神戸	二七、一〇六	二、五二四	二、七九二	二、七五七
名古屋	八、四四〇	三、八二四	七、九〇〇	三、七一一
横濱	〇〇〇	二、三九二	〇〇〇	五、一〇〇
東京	五、〇四九	五、〇一〇	五、三二六	四、六三二
東海	七、九六九	一、九〇四	一〇、三三三	三、一四五
下関	七、〇一三	二、五、一三九	一、〇三三	三、一四五
門司	二、六八六	五、八四七	二、二八二	七、六五〇
博多	二、四八八	三、〇五六	二、四八〇	三、七五〇
長崎	一、五三二	二、一六八	一、三二五	九、八五六
其他	三、三八二	一、五九、九五五	二、五九九	一、五七、一六二
計	五、四、二〇〇	四、四、八四七	五、九、三三〇	四、八、〇九〇

肥料平均相場月別一覽表

商標又ハ品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
乾 鱈 (二合格品)	百斤	四、〇〇	四、〇〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇
鮮 鱈 (同)	同	四、〇〇	四、〇〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇
鱈 鱈 (同)	同	四、〇〇	四、〇〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇
牛 骨	同	三、五〇	三、三〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、九一	二、五八

(三) 移 入 貨 物

當港本年の移入貿易額は一億二千五百三十七萬餘圓で前年に比し二千七百九十七萬餘圓の増進を示した、右の増進はインフレーション並に鮮内産業好轉の餘波を受け一般消費増大に基くものであるが、一面滿洲國經濟狀態の確立に依る内地對滿洲國間の中繼貿易の増進に伴ひ一段進展を促したる結果である、而して移入貿易増減の顯著なるものを舉ぐれば、鮮産増加の影響を蒙れる護謨靴、地下足袋、硫安肥料等一齊減少を見た外、内地生産不況を呈せし乾明太魚の入荷振はず、又春先に於ける蜜柑の減入から柑橘類等減退したるも、地方農村景氣の回復に伴ひ綿織物、人造絹布等の躍進目覚ましく、而も滿洲國仕向の鐵道車輛、國産品據頭に依る礦油、機械類等の増進に次で鮮内土木建築工事の進捗に伴ふ鐵鋼類、セメント等入増し、其他増加の著しきものは和洋服、自動車等であつたが、移入の大半朝紡原料品に屬する繰綿は、經路の變更に依て輸入増進の反面數量的に減退せしも、市價値上りの爲價額に増加し、其外綿織絲、晒金巾等は物價値上り關係で數量減、價額増を來したるもの、主なるものであつた。

尙本年移入貿易額七百萬圓以上を算したものは綿織物の一點、六百萬圓以上のもの繰綿の一點、四百萬圓以上のもの綿織絲、洋服、機械類の三點、三百萬圓以上のもの絹織物、肌衣の二點、二百萬圓以上のもの礦油、鐵及鋼、鐵道車輛、自動車、小包郵便物の五點、一百萬圓を超えるものに至りては菓子、柑橘類、賣藥、綿織絲、毛絲、毛織物、地下足袋、洋紙、書籍及雜誌、石炭、樂器、電信電話機、自轉車、木材、ラムプの十五點を數へられる。

移入主要品二年比較表

品 名	單 位	數		量 增 減 (△)	價 額	
		昭和八年	昭和七年		昭和八年	昭和七年
植 物	頭	三三三	三三三	—	110,000	110,000
馬	頭	—	—	—	—	—
米	百斤	四三、七二	二七、八八八	△	11,328	11,328
及 外 國	同	三、八三七	四、三三一	△	2,891	2,891
米 其 他	同	七、八四四	五、六九七	△	8,045	8,045
粗 計	同	五三、三九六	三七、九一六	△	20,268	20,268
大 麥 及 裸 麥	同	六九、八三六	五五、七六七	△	7,009	7,009
小 麥	同	二、〇〇〇	10,121	△	1,212	1,212
豆 小	同	二、五八三	二、五八三	—	1,111	1,111
豆 大	同	三、三三八	四、七七一	△	1,381	1,381

第三 内地貿易 (貨物)

類	其	他	計
小	粟	麥	粉
片	糖	粉	斤
砂	蜜	糖	斤
糖	子	蜜	斤
葉	精	子	斤
酒	入	精	斤
清	他	入	斤
酒	其	他	斤
麥	計	他	斤
葡	酒	他	斤
葡萄	酒	他	斤
ウキ	酒	他	斤
スキ	酒	他	斤
ー	酒	他	斤
ブラ	酒	他	斤
ン	酒	他	斤
デ	酒	他	斤
焼	酒	他	斤
生	酒	他	斤
乾	酒	他	斤
漬	酒	他	斤
柑	酒	他	斤
橘	酒	他	斤
類	酒	他	斤

第三 内地貿易 (貨物)

果	生	其	計
茶	油	計	斤
醬	油	計	斤
コン	油	計	斤
デン	油	計	斤
ス	油	計	斤
ド	油	計	斤
ミ	油	計	斤
ル	油	計	斤
ク	油	計	斤
魚	計	斤	
其	計	斤	
他	計	斤	
乾	計	斤	
明	計	斤	
太	計	斤	
魚	計	斤	
他	計	斤	
昆	計	斤	
布	計	斤	
(計	斤	
織	計	斤	
詰	計	斤	
ノ	計	斤	
モ	計	斤	
ノ	計	斤	
ヲ	計	斤	
除	計	斤	
ク)	計	斤	
乾	計	斤	
海	計	斤	
苔	計	斤	
鹽	計	斤	
各種	計	斤	
ノ	計	斤	
織	計	斤	
詰	計	斤	
壺	計	斤	
詰	計		
食物	計		
及	計		
壺	計		
詰	計		
飲料	計		
清	計		
涼	計		
飲	計		
料	計		
葉	計		
煙	計		
草	計		
斤	計		